授業科目名	地域·学校実践演習 I				
担当教員名	服部敬一				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習	演習			
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭(23年),	小学校教頭(5年)	,教育委員会指導主事(2年),小学校校長(7	7年) (全15回)

授業概要

地域の教育施設や学校園等のフィールドワークを行う。地域の教育施設や学校園等にボランティアあるいはインターンシップとして参加し、参与観察および関係者へのインタビュー等を通して、教員や教育職員、子供、保護者が抱えている課題は何かを探求する。その探求方法として、ケースメソッドによる省察を行う。そのために、省察的実践とケースメソッドについての理論的な理解を踏まえながら、本授業で関与している事例について、学問領域、校種、年齢、学校と地域などの領域を越えて、事例を多角的・多面的に省察していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容:

目標:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

地域の教育施設や学校園等の教員,教育職員, 子供,保護者が抱える課題を探求し,ケースメ ソッドによる省察を行う。

2. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 技術 地域の教育施設や学校園等の教員,教育職員, 子供,保護者が抱えるについて,省察すること を通して論理的な視点をもつ。 地域の教育施設や学校園等の教員、教育職員、子供、保護者が抱える課題について多角的・多面的に省察する。

課題の根拠を分析し、見極める視点をもつことが できる。

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 技術

2. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

各教育現場から、我が国の教育や社会が抱える課題を見るとともに、その構造的意味について事実をもとに考察することを通して、物事の見方・考え方を深めることができる。

学生相互で意見を交流し合いながら、実践課題を 形成,分析,考察することができる。

学外連携学修

有り(連携先:未定)

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ディベート、討論
- 見学、フィールドワーク
- ·課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

筆頭試験 : 地域のフィールドの課題を理解し、省察して、優れた授業、教師に結びつけている。

30 %

実践課題

: 地域の教育施設や学校園等の教員や教育職員、子供、保護者が抱えている課題は何かを探求した。

授業づくりと授業実践

地域の教育施設や学校園等の教員や教育職員,子供,保護者が抱えている課題をもとに優れた授業 実践に結びつけている。

20 %

成果発表

域の教育施設や学校園等の教員や教育職員、子供、保護者が抱えて課題をケースメソッドにより省 察し、改善視点を提案した。

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・授業内で参考となる資料,文献を紹介・配布する。

. 10

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 自由に来てください。

場所: 研究室

業計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	オリエンテーション(授業科目の趣旨と到達目標の説明を 受ける)	本授業の趣旨を理解し、各フィールドにおける課 題の見通しをもつ	4時間
	・地域の教育施設や学校園等のフィールドワークを行うこ		
	と ・地域の教育施設や学校園等にボランティアあるいはイン ターンシップとして参加すること ・参与観察および関係者へのインタビュー等を通して、教 員や教育職員、子供、保護者が抱えている課題は何かを探 求すること		
	・探求方法として,ケースメソッドによる省察を行うこと・省察的実践とケースメソッドについての理論的な理解を踏まえながら,本授業で関与している事例について,学問領域、校種、年齢、学校と地域などの領域を越えて,事例を多角的・多面的に省察していくこと		
	○協力学校園、施設でのケースを収集する。		
第2回	自己の実践課題の発掘(課題発見の視点を探る。)	自己の実践課題の方向の見通しをもつ	4時間
	地域の教育施設や学校園等のフィールドワークに際して、 どのような自己の実践課題を発掘できるかを想定し、ボランティアあるいはインターンシップへの見通しをもつ。 ・対象となる施設に対する自己の課題意識 ・対象となる施設に関する課題データ(書籍、インターネット)		
	○ それぞれが収集したケースについて議論し、課題を探り、自己の研究課題を設定する。		
第3回	自己の実践課題の具現化(何を問題としなけれならない か?)	実践課題について, 何を問題とすべきかを明確に する	4時間
	 ○ 発掘した自己の研究課題の中から問題を絞る。 ・問題の対象となるのは誰か? (例えば、園長、施設長、教職員、教育職員、子供、保護者) ・問題の対象となるのは何か? (内容、規則、時間、施設、人手等) 		
第4回	自己の実践課題の解決に関する思索(自己の実践課題の解 決を教育方法学的に接近する)	自身の実践課題の解決に向けた方策について,関連する文献を収集し,講読することで検討する。	4時間
	問題について収集したデータを整理し,分析することで, 自己の実践課題を探求するための方法,手立てについての 計画を策定する。そのために,課題,現状,原因,根拠等 の視点から議論を行う。		
第5回	協力校でのインターンシップ(1)(小学校・幼稚園・保育 所)	自身の改善策について、多面的に検討すること。	4時間
	自己の研究課題に基づき、協力学校園での参与観察や教職 員へのインタビューを通して実践課題への見通しを具体化 し、何を問題とすべきかを明確にしていく。 ・状況把握 ・質問		
第6回	小学校・幼稚園・保育所での学校観察の振り返りと省察 (協力学校園の教員と意見交流し,実践課題を指定する。	自身の実践課題と照らし合わせて,課題の明確化 を図るとともに,改善案を具体化する。	4時間
	自己の研究課題に関して具体化した問題について協力学校 園の教職員と意見交換し実践課題を措定する。 ・協力学校園の問題を受け止める。 ・協力学校園の問題を見つける。 ・協力学校絵の問題をつくり出す。		
第7回	協力施設でのインターンシップ(2) (地域の教育施設)	自身の実践課題と照らし合わせて、観察・調査し たことがらをもとに改善策を策定すること。	4時間

	自己の研究課題に基づき、地域の教育施設での参与観察や職員へのインタビューを通して実践課題への見通しを具体化し、何を問題とすべきかを明確にしていく。 ・状況把握 ・質問		
第8回	地域の教育施設観察の振り返りと省察(協力施設の教員と 意見交流し,実践課題を指定する。	自身の改善策を検討し、改善策を再策定すること。	4時間
	自己の研究課題に関して具体化した問題について地域の教育施設の職員と意見交換し実践課題を措定する。 ・協力学校園の問題を受け止める。 ・協力学校園の問題を見つける。 ・協力学校園の問題を見つける。 ・協力学校絵の問題をつくり出す。		
第9回	地域・学校園の教育課題に応える(1) 課題の探求	選定した課題及び改善策について, 取り組みの計 画を策定すること。	4時間
	自己の実践課題を省察し、地域の教育施設や学校園の実践 課題及び改善作をを探求するとともに、取り組みの計画を 策定する。		
第10回	地域・学校園の教育課題に応える(2) 構想	実践課題に基づく計画案を充実させること。	4時間
	地域の教育施設や学校園の実践課題解決のための方策を構 想する。		
第11回	地域・学校園の教育課題に応える(3) 構想の構築	計画案に沿った実施の評価を行うこと。	4時間
	地域の教育施設や学校園の実践課題解決のための方策を構 想を構築し,計画に沿った実施の評価を行う。		
第12回	実践課題の応ずる構想発表(1) 協力学校園からの指導	関係者から受けた指導と助言の内容を直ちに取り 組み(案)に反映させること。	4時間
	協力学校園の実践課題解決のための構想を発表し,協力学 校園から指導を受ける。		
第13回	実践課題の応ずる構想発表(2) 地域の教育施設からの指導	これまでの取り組みについて整理し、まとめること。	4時間
	地域の教育施設の実践課題解決のための構想を発表し,協 力施設から指導を受ける。		
第14回	「地域・学校実践フィールド研究」フォーラムへの準備 (実践課題に応ずる授業実践の発表と内容と方法を準備す る。)	プレゼンテーションの練習は各自で行っておくこ と。	4時間
	本授業で取り組んだ実践課題に応ずる解決への構想についての発表内容と方法についての準備を行う。 【スライド作成】		
第15回	「地域・学校実践フィールド研究」フォーラム(実践課題 に応ずる実践構想を発表する)	仲間のプレゼンテーションをふり返り,自身の実 践課題の設定とその解決法について,再度,思索 しておくこと。	4時間
	本授業で取り組んだ実践課題に応ずる解決への構想についての実践構想を発表する。 【プレゼンテーション】		

授業科目名	地域・学校実践演習Ⅱ					
担当教員名	米田薫					
学年・コース等	1年	年 開講期間 後期 単位数 2				
授業形態	演習	演習				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する					
実務経験の概要	公立中学校教諭として14 クールカウンセラーを務	公立中学校教諭として14年間勤務の後、教育委員会指導主事として教育相談を7年間担当した。その後、公立中学校スクールカウンセラーを務めている。【全15回】				

授業概要

本授業は、我が国の教育が直面する不登校・いじめ・子育て不安等の今日的教育課題を、学校や家庭、地域を包括的に捉える視点からの解決をめざし、とりわけ、心理教育が担う役割や具体的方策を中心に、理論的、実践的に検討する。子どもや保護者、子どもの支援に関わる人々を対象とする心理教育を実践するためにカウンセリング心理学の理論やスキルを習得し、生徒指導・教育相談に係る力量や家庭・地域教育支援に関する資質の向上を図り、教員や保護者等への適切な支援・助言ができる力量を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容:

目標:

1. DP 3. 批判的検討に基づく自己の考え方の表 子どもや教員・保護者等への適切な支援・助言 子どもや教員・保護者等を支援する理論とスキル出と他者を尊重した討議・応答 子どもや教員・保護者等を支援する理論とスキル の習得

汎用的な力

1. DP 3. 批判的検討に基づく自己の考え方の表 出と他者を尊重した討議・応答

具体事例に対して、適切な方針を打ち出せる

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- 見学、フィールドワーク
- ·課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

レポート・課題ワークシート

・ 本科目で取り上げる課題について、経験や先行研究に基づく現状分析と、授業を通じての今後の展望についての考察を評価する。

70 %

プレゼンテーション

担当した課題に関するプレゼンテーションと、それに用いた資料によって評価する。

30 %

使用教科書

- ・上地安昭編著『教師カウンセラー実践ハンドブック』金子書房 2010年 ISBN 9784760823581 ・山崎勝之・戸田有一・渡辺弥生編著『世界の学校予防教育』金子書房 2013年 ISBN 9784760888016

他は、授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業日の授業時間前後 場所: 中央館5階127研究室

※対面の質問は予約して下さい。 メールでの質問にもお応えします。 備考·注意事項:

			かかる目安の時間
第1回	地域と学校における子どもたちの現状と課題	地域・学校実践演習Iの振り返り	4時間
	ライフサイクルの変化、ネット社会の進展、準拠集団の変容、「やさしさ」の変容、反抗期が無い子どもたちの増加等、家庭を含む地域と学校における子どもたちの現状と課題を読み解く。		
	併せて、カウンセリング心理学を基にした地域教育や学校 教育を展開する際の基本となる個への接し方を学ぶ。		
第2回	地域と学校の課題を考えるための事例検討の在り方	本時の復習と次時の予習レポートの作成	4時間
	地域と学校の課題を検討するためのツールとしての事例検 討の在り方を学ぶ。		
第3回	教育環境としての学校の現状と課題1	本時の復習と次時の予習レポートの作成	4時間
	いじめ、不登校・中退、学級の「荒れ」、体罰、非行等の 学校教育の諸問題を概観する。 併せて、カウンセリング心理学を基にした地域教育や学校 教育を展開する際の基本となる人間関係づくりを学ぶ。		
第4回	学校教育の課題を検討する1	本時の復習と次時の予習レポートの作成	4時間
	学校教育の諸問題から取り上げた事例について検討する。		
第5回	教育環境としての地域の現状と課題1	本時の復習と次時の予習レポートの作成	4時間
	社会構造の変化、格差社会、地域コミュニティの変容、子どもの貧困、児童虐待、子育て支援、社会教育、児童福祉施設等、教育環境としての地域の現状と課題を考察する。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育について、 そのアセスメントの在り方を含めて概観する。		
第6回	地域教育の課題を検討する1	本時の復習と次時の模擬実践の準備	4時間
	地域教育の諸問題から取り上げた事例について検討する。		
第7回	教育環境としての学校の現状と課題2	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
	「チーム学校」、多文化共生、PTA、学童保育・放課後子ど も教室、学校不信等の教育環境としての学校の現状と課題		
	を整理する。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の具体例と して、構成的グループエンカウンターを学ぶ。		
第8回	学校教育の課題を検討する2	本時の復習と次時の模擬実践の準備	4時間
	受講者がらの学校教育に関する具体的事例をテーマとして 、受講者が役割分担してケーススタディを進行する。		
第9回	地域教育の課題を検討する2	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
	受講者がらの地域教育に関する具体的事例をテーマとして 、受講者が役割分担してケーススタディを進行する。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の具体例と して、ソーシャルスキル教育について学ぶ。		
	受講者がらの地域教育に関する具体的事例をテーマとして 、受講者が役割分担してケーススタディを進行する。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の具体例と して、社会性と情動を育てる学修(SEL)について学ぶ。		
第11回	学校と地域の連携の現状と課題1	本時の復習と次時の予習レポートの作成	4時間
	郷土教育、地域スポーツクラブ、文化活動、山村留学、ボランティア活動、NPO・行政機関の地域包括型支援等の学校と地域の連携の現状と課題を整理する。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の実践計画を立案する。		
第12回	地域と学校の恊働に関する課題を検討する1	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
	受講者がらの地域と学校の協働に関する具体的事例をテーマとして、受講者が役割分担してケーススタディを進行する。		
第13回	学校と地域の協働	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
	学校運営協議会、学社連携、社会的包摂等、学校と地域の 協働のあり方を考察する。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の実践計画		
	が住て、地域教育や子仪教育に買りる心理教育の美國計画を立案する。		

受講者がらの地域と学校の協働に関する具体的事例をテーマとして、受講者が役割分担してケーススタディを進行する。		
まとめと課題	本時の復習と課題レポートの作成	4時間
成果と課題のプレゼンテーションを行う。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の模擬実践 を行う。		
		4時間
	マとして、受講者が役割分担してケーススタディを進行する。 まとめと課題 成果と課題のプレゼンテーションを行う。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の模擬実践	マとして、受講者が役割分担してケーススタディを進行する。 まとめと課題 成果と課題のプレゼンテーションを行う。 併せて、地域教育や学校教育に資する心理教育の模擬実践

授業科目名	現代教育実践学Ⅱ(幼児教育学)					
担当教員名	石田貴子					
学年・コース等	1・2年	1 • 2年 開講期間 前期 単位数 2				
授業形態	講義					
実務経験のある教 員による授業科目						
実務経験の概要						

授業概要

本授業では、日本及び諸外国の教育・保育思想や理論、先駆的な実践について学び、幼児教育・保育を概括的に捉えて、幼児教育・保育の基本的な考え方への理解を深める。それを踏まえて、現代日本及び諸外国のさまざまな幼児教育・保育実践に触れ、子どもの発達にふさわしい実践が展開されるためのカリキュラム作成の基礎的研究を行う。具体的には、授業各回で示すキーワードを中心に、関連する文献を読みながら理論及び実践を分析し検討する形で進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 幼児教育・保育の概括的な理解と現代の課題発 技術 見

汎用的な力

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

2. DP 3. 批判的検討に基づく自己の考え方の表 出と他者を尊重した討議・応答 自らの教育・保育実践を省察し、学びを踏まえて 創造的に問題解決を考えようとすることができ る。

幼児教育・保育の思想や歴史、理論を踏まえ、今日の課題に対応するカリキュラムや実践構想の視点を持つことができる。

自己の考えを客観的に分析し、他者の考えを尊重 しつつ適切に述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題 に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修 得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

事前ワークシート : 授業各回で事前に出された課題に適切に取り組んでいるかを、事前ワークシートをもとに評価す

,

授業内での課題達成(ミニレポート) : 授業各回のテーマを適切に把握し、学習目標を達成できているかを、授業内で作成するミニレポー

トをもとに評価する。

授業への積極的参加・貢献 : 授業各回での発言・発表など、積極的に参加・貢献しているかを評価する。

15 %

最終レポート : テーマに対し、自らの視点をもって取り組み、論理的に文章化されているかを評価する。

25 %

30 %

30 %

使用教科書

- ・民秋言(編者代表)(2017)『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林・沙見稔幸・松本園子・高田文子・矢治夕起・森川敬子(2017)『日本の保育の歴史』萌文書林・倉橋惣三(2008)『幼稚園真諦』(倉橋惣三文庫①)フレーベル館・ジョン・デューイ 市村尚久訳(1998)『学校と社会 子どもとカリキュラム』(講談社学術文庫)講談社・フレーベル 新井武訳(1964)『人間の教育』(上)(下)(岩波文庫)岩波書店・泉千勢編著(2008)『プロジェクト型保育の実践研究』北大路書房・高山和子(2014)『環境構成の理論と実践』エイデル研究所・お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校の理論と実践』エイデル研究所・お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校の野で作った接続期カリキュラムー』東洋館出版社・柏女霊峰(2015)『子ども・子育て支援新制度を読み解く』誠信書房※ほか、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

自らの教育・保育経験や教育・保育観を大切にしながらも、そこにとどまることなく、新たな知見や異なる考え方に触れて常に自らを問い直す姿勢で臨んでください。各回で取り上げる具体的な文献や実践事例などは、受講生の希望や関心に応じて柔軟に対応します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

初回授業で伝達します 時間: 場所: 中央館2F研究室

備考·注意事項:

e - mail : ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp メールには、科目名(現代教育実践学Ⅱ)、所属、学籍番号、氏名を書き入れてください。

業計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	オリエンテーション	 各自の関心や研究テーマについて、まとめてお く。	4時間
	シラバスを用い、本授業の目的、計画、進め方、評価等に ついて知る。合わせて、受講生の関心や研究テーマを紹介 し合い、共有することで、これからの授業に参加する上で の基盤をつくる。		
第2回	キーワードで考える幼児教育・保育(1)「教育」「学校 教育」「幼児教育」「保育」	教育・学校教育・幼児教育・保育の意味について まとめておく。	4時間
	「すべての子どもに質の高い幼児期の学校教育及び保育の 総合的な提供を行う」施設として登場した「幼保連携型認 定こども園」の位置づけを手掛かりに、「教育」「学校教 育」「幼児教育」「保育」の意味について考える。		
第3回	キーワードで考える幼児教育・保育(2)「教師」と「保 育者」	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間
	幼稚園と保育所のカリキュラムや保育実践の映像の比較、 保育実習記録と保育実践記録の比較などを通し、「幼児教育」「保育」に携わる専門職としての「保育者」のあり方 と成長について考える。		
第4回	キーワードで考える幼児教育・保育(3)「遊び」と「活 動」①	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間
	デューイやフレーベルなどの思想を手掛かりに、「遊び」 と「活動」の意味について考える。		
第5回	キーワードで考える幼児教育・保育(3)「遊び」と「活 動」②	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間
	プロジェクト型保育の実践事例を取り上げ、遊びから活動 への移行について考える。		
第6回	キーワードで考える幼児教育・保育(4)「生活」と「経 験」①	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間
	デューイや倉橋惣三などの思想と先駆的実践を手掛かりに 、「生活」と「経験」の意味及び保育のカリキュラム編成 について考える。		
第7回	キーワードで考える幼児教育・保育(4)「生活」と「経 験」②	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間
	自然の中での生活を重視した実践や、情報化社会への適応 を意識した実践など、さまざまな保育の事例を取り上げ、 「生きる力」を育む生活と経験のあり方について考える。		
第8回	キーワードで考える幼児教育・保育(5)「環境」①	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間
	第3回〜第6回までの学びを踏まえ、「環境」を通した保育 のあり方について考える。		
第9回	キーワードで考える幼児教育・保育(5)「環境」②	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間
	日本及び諸外国の園環境をいくつか取り上げて比較し、子 どもの発達にふさわしい環境構成について考える。		
第10回	キーワードで考える幼児教育・保育(6)「集団」と「個 人」①	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間
	共同体論を手掛かりに、「集団」と「個人」のあり方につ いて考える。		
第11回	キーワードで考える幼児教育・保育(6)「集団」と「個 人」②	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間
	「気になる子」を含む保育の実践事例を取り上げ、個々の 良さを生かす集団づくりとカリキュラム編成について考え る。		
第12回	キーワードで考える幼児教育・保育(7)「主体性」①	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間

	「自主性」「自発性」との違いを手掛かりに、「主体性」 の意味について考える。		
第13回	キーワードで考える幼児教育・保育(7)「主体性」	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間
	保育者の言葉かけの事例を取り上げ、子どもの主体性を育 む保育者の関わりとカリキュラム編成について考える。		
第14回	キーワードで考える幼児教育・保育(8)「連続性」①	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間
	保幼小連携の現状と課題を、調査や事例をもとに分析し、 教育や学びの連続性について考える。		
第15回	キーワードで考える幼児教育・保育(8)「連続性」②	事前に示す文献を読み、ワークシートを作成す る。	4時間
	子ども・子育て支援新制度の現状と課題を踏まえ、園と家 庭や地域の連続性について、事例をもとに考える。		

授業科目名	現代教育実践学Ⅲ(教育心理学)					
担当教員名	羽野ゆつ子					
学年・コース等	1年	1 年 開講期間 後期 単位数 2				
授業形態	講義					
実務経験のある教 員による授業科目						
実務経験の概要						

授業概要

主体的で協働的な学習や深い学習、創造的問題解決力の育成など、学習観が転換する現代の教育実践をとらえる視座を得ることを目的とする。被教育者の発達と学習を中心とする教育心理学研究、教師をはじめ教育者の発達と学習に関する教育心理学研究を解題する。被教育者と教育者の両面からの考察により、関係論的な視点から教育という営みをとらえ直す。さらに、教育心理学の知見を具体的な教育実践の事例と照らしながら検討し、実践と研究の構想につなぐ機会とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容:

DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 教育心理学の高度な専門知識の学修

目標:

現代の教育心理学の研究課題と、その知見を知り、批判的に考察できる。

技術 **汎用的な力**

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

教育心理学の理論を実践と往還させて考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

平常点

: 事前学修の準備内容と討論への参加を総合的に評価する。

70 %

レポート

実践事例と理論の省察性と、実践の構想力を総合して評価する。

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業の前後に応じる。

場所: 教室または研究室 (中央館2階研究室80)

削		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	学校教育と教育心理学	次回の予習を行う。(文献の講読とレジュメの作成)	4時間
	現代の学校教育の課題について、教育心理学と結びつけて 考え、現代の教育心理学を学ぶ意味を考えます。		
第2回	遺伝と環境	次回の予習を行う。 (文献の講読とレジュメの作成)	4時間
	巻物を広げるという意味の「発達 (development) 」について、遺伝と環境についての教育心理学研究から検討します。		
第3回	社会的認知の発達と進化	次回の予習を行う。(文献の講読とレジュメの作成)	4時間
	ヒトらしい発達とは? ヒトとチンパンジーを比較する、 比較認知発達心理学研究の成果から、ヒトらししさ、ヒト らしい発達について考えます。		
第4回	知能	次回の予習を行う。(文献の講読とレジュメの作 成)	4時間
	IQからEQ、多重知能理論へ。知能研究の変遷をたどりなが ら、現代の学校教育における知能観を省察します。		
第5回	身体と認知	次回の予習を行う。(文献の講読とレジュメの作成)	4時間
	考えることは、頭で行うこと=身体を使わなくなることなのか。思考に果たす身体の役割についての心理学研究に照らし、学習観や教育観を省察します。		
第6回	言語と思考	次回の予習を行う。 (文献の講読とレジュメの作成)	4時間
	メタファーやアナロジーを中心に、創造性や問題解決の思 考に関する心理学研究に照らして、子どもの思考について 考えます。		
第7回	メタ認知と批判的思考	次回の予習を行う。(文献の講読とレジュメの作 成)	4時間
	コンピテンシーの中核である反省性(リフレクシヴィティ)について、心理学のメタ認知や批判的思考に関する研究 から考えます。		
第8回	構成主義の発達と学習	次回の予習を行う。(文献の講読とレジュメの作成)	4時間
	能動性、環境との相互作用を重視する構成主義の発達と学 習研究について検討します。		
第9回	社会的構成主義の発達と学習	次回の予習を行う。(文献の講読とレジュメの作成)	4時間
	協同性を重視する社会的構成主義の発達と学習研究につい て検討します。		
第10回	活動主義の発達と学習	次回の予習を行う。(文献の講読とレジュメの作成)	4時間
	関係性の視点から発達と学習を考える、活動主義の研究に ついて検討します。		
第11回	教師の熱達化	次回の予習を行う。(文献の講読とレジュメの作成)	4時間
	教師は、実践をとおして、どのようにわざを磨くのか。わ ざとは何か。教師の発達について考えます。		
第12回	実践知と実践的思考	次回の予習を行う。(文献の講読とレジュメの作成)	4時間
	実践の中での実践者の知識と思考について、心理学研究に 照らして考えます。		
第13回	現代教育実践の事例研究(1) 授業の省察(リフレク ション)とケース・メソッド	次回の予習を行う。(文献の講読とレジュメの作成)	4時間
	授業という営み=ケース(事例)を省察しながら、実践を 創造し、学んでいく教師の思考について考えます。		
第14回	現代教育実践の事例研究(2) 教科の授業を事例に	次回の予習を行う。(文献の講読とレジュメの作成)	4時間
	受講者の関心に照らして、事例を選択し、その事例を協同 で省察します。		
第15回	現代教育実践の事例研究 (3) 総合学習を事例に	最終レポートの作成	4時間
	受講者の関心に照らして、事例を選択し、その事例を協同で省察します。		

授業科目名	現代教育実践学Ⅳ(発育発達学)				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

身体の発育発達は環境など多くの要因によって変化し、生涯の健康に影響を与える。特に生涯の健康の保持増進にとって幼児期の発育発達は関与しており、 健全な発育発達の促進と健康の保持増進は、子どもの生きる力を育み、学力や非認知能力を高めることに貢献する。また現在の子どもを取り巻く生活環境の 変化から、予防医学的見地からの健康課題も多く多様な研究報告がなされている。そこで本科目では子どもの発育発達を科学的根拠を基に解説すると共に子 どもの発育・発達問題等に関する調査データを読み解きながら課題を解決を進めていく。さらに教育・医療・福祉分野で実際に実施されている発育発達を評 価する測定方法についても知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 発育発達学の知識の修得と教育実践 技術

身体の構造と機能、さらには発育発達と老化を理解し、それに関わる健康教育や運動指導の具体的方法を理解することができる。

汎用的な力

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

発育・発達問題等に関する調査データを読み解きながら課題解決方法を具体的に考えることができ

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題 に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修 得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

テーマ毎に測定評価し、レポート提出 事前学修の準備内容を踏まえ、テーマごとに測定評価し、提出したレポートを総合的に評価する。

60 %

: 事前学修、授業中に於けるグループ学習、発表等を総合的に評価する。 授業への取り組みや態度

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 1) 1から学ぶスポーツ生理学、中里浩一・岡本孝信・須永美歌子(有限会社ナップ、2016年、ISBN9784905168423)
 基礎生理学、安谷屋均(東洋書店、2008年、ISBN9784885958069)

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが 求められ、各授業回あたり4時間の授業外学修が必要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

 場所:
 中央館2階研究室

 備考・注意事項:
 授業初回に連絡する。

計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	オリエンテーテーション	授業を終えてからは当該授業において自らが理解 した内容を整理することが求められる。	4時間
第2回	授業計画、履修上の注意、評価の方法等の説明 発育発達と運動	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
	発育発達とは?生命の誕生から成人までの発育発達過程を 理解する・発育発達と老化と運動の関係等について学習し、レポートにまとめる。		
第3回	体格の発育	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
	各自の身長、体重、胸囲を測定し、評価する。文献、資料 を基に0歳から20歳における男女の身長、体重、胸囲の発育 について学習し、レポートにまとめる。		
第4回	骨・筋の発育発達	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
	各自の骨密度、筋力を装置を使って測定し、評価する。文献に資料を基に3歳から80歳における男女の骨密度、筋力の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。		
第5回	体力・運動能力の発育発達	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
	各自の体力・運動能力を器具を使って測定し、評価する。 文献に資料を基に3歳から80歳における男女の体力・運動 能力の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。		
第6回	神経系の発達	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
	各自の心拍数、体温、ストレス度を装置を使って測定し、 評価する。文献に資料を基に3歳から80歳における男女の 心拍数、体温、ストレス度の発育・老化について学習し、 レポートにまとめる。		
第7回	活動量の発達	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
	各自の心拍数、歩数、運動量を装置を使って測定し、評価する。文献に資料を基に3歳から80歳における男女の心拍数、歩数、運動量の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。		
第8回	脳の発達と運動	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
	文献・資料を基に0歳から20歳における脳の発達と運動につ いて学習し、レポートにまとめる		
第9回	呼吸循環器系の発達	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
	各自の肺活量、血圧、心拍数を器具を使って測定し、評価する。文献に資料を基に3歳から80歳における男女の肺活量、血圧、心拍数、酸素摂取量の発育・老化について学習し、レポートにまとめる。		
第10回	こころの発達	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
	文献・資料を基にこころとは? 0歳から20歳におけるこころの発達と運動について学習し、 レポートにまとめる。		
第11回	社会性の発達	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間

	文献・資料を基に社会性とは?0歳から20歳における社会性 の発達と運動について学習し、 レポートにまとめる。		
第12回	栄養と発育発達	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	4時間
	文献・資料を基に0歳から20歳における食生活の変化と運動 について学習し、 レポートにまとめる。		
第13回	運動・栄養・休養	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	4時間
	文献・資料を基に0歳から20歳におけ運動・栄養・休養につ いて学習し、レポートにまとめる。		
第14回	発育発達期に多い怪我や病気	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	4時間
	文献・資料を基に0歳から20歳における怪我や病気について 学習し、レポートにまとめる。		
第15回	年齢段階にに応じた運動指導	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	4時間
	文献・資料を基に0歳から20歳における発育発津達に応じた 適切な運動指導について学習し、 レポートにまとめる。		

授業科目名	研究方法論 I				
担当教員名	 鈴木勇 				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育学研究に必要な方法論や研究事例を学び、教育学研究を行うために必要な知識や技能を身につける。具体的には 教育・保育を多角的に分析するための視点や方法を修得するために、質的及び量的アプローチによる研究の手法を学ぶことが目的である。とりわけ本科目では、社会調査法に依拠しつつ、エスノグラフィーの技法や、統計解析を用いた数量データの分析方法について学習した上で、それぞれの研究をデザインできる力の獲得を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP 3. 批判的検討に基づく自己の考え方の表 研究方法 出と他者を尊重した討議・応答

汎用的な力

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

教育学研究を行うために、社会調査法を用いた研究をデザインすることができる。 研究方法を理解し、自らの問題と関連付けてデザインすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内で示す課題

社会調査の方法に関する文献を理解し、他者に説明することができる。自らの研究上の問題と関連付けて考えることができる。

60 %

期末レポート

社会調査の方法を理解し、自らの問題と関連付けて調査をデザインすることができる。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方[上]』東京大学出版会. (ISBN: 9784130520263) 佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方[下]』東京大学出版会. (ISBN: 9784130520270) 藤原文雄ほか編著、2010、『学校組織調査法―デザイン・方法・技法』学事出版. (ISBN: 9784761917548)

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり4時間の授業外学修が必要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業の前後

場所: 教室または中央館5階研究室

於計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	オリエンテーション:社会調査とは	 授業内容を配布資料を用いて復習する。次回の該 当箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
	社会調査では、理論とデータと方法の間でバランスをとりながら、リサーチクエスチョンに対する答えを実証的に探求する。社会調査とはどのようなものか、どのようなプロセスでそれは行われるのか、その概要を学ぶ。		
第2回	問いを立てる	再度自身の研究上の問いを整理する。次回の該当 箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
	社会調査において問いを立てる際には、①実証可能性と② 学問的・社会的な価値・意義と③資源的条件を考慮することが大切である。それらを踏まえて、自身の研究上の問題 関心について再検討する。		
第3回	仮説を立てる	再度自身の仮説について検討する。次回の該当箇 所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
	問いに対する仮の答えである仮説をいったん持つことは、 量的調査に多い仮説検証型の調査でも、質的調査に多い仮 説生成型の調査でも、必要である。自身の研究上の問いに 対する仮説を考えてみる。		
第4回	調査の見通しを立てる	再度自身のリサーチデザインについて検討する。 次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめ	4時間
	どのようなデータを収集し、最終的にどのような集計表や一覧表を論文に示すつもりか、あらかじめイメージを持ちつつ、調査の手順やプラン、スケジュールを考えることをリサーチデザインという。自身の問いを探求する際のリサーチデザインをおおまかに検討してみる。	ి సేం.	
第5回	サンプリング	授業内容をレジュメや配布資料を用いて復習す る。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをま	4時間
	統計的サンプリングと理論的サンプリングの基礎について 理解し、自身の場合どのように調査対象を定めていくこと が望ましいか検討する。	とめる。 	
第6回	測定する	授業内容をレジュメや配布資料を用いて復習する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをま とめる。	4時間
	社会的な現象について測定を行う際に必要な、概念の操作 的定義について理解する。また、測定に用いる質問項目(尺度や指標)の信頼性や妥当性、変数の種類などについて 、その基本的な考え方を理解する。		
第7回	個別技法:実験法	授業内容をレジュメや配布資料を用いて復習する。次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをま とめる。	4時間
	実験の考え方を通して、適切に原因と結果の関係を考える (因果推論を行う) ために必要なポイントを理解する。		
第8回	個別技法:サーベイ	再度自身の質問文について検討する。次回の該当 箇所の文献を読み、レジュメをまとめる。	4時間
	質問紙調査とは何か、すぐれた質問紙調査を行うにはどの ような点に留意すべきかについて理解する。質問の作り方 を学習し、自身の研究上の問いについて、いくつか質問を 作成してみる。		
第9回	事例①:サーベイリサーチ	自身の調査研究に活かせる点はないか再考する。 次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめ る。	4時間
	サーベイリサーチの事例として、『学校組織調査法』「第5章 学校改善を促す組織文化としての同僚性」を読み、具体的にどのように質問紙を用いた調査研究を進めるかを理解する。自身の調査研究に活かせる点はないか検討する。		
第10回	事例②:計量的モノグラフ	自身の調査研究に活かせる点はないか再考する。 次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめ る。	4時間
	計量的モノグラフの事例として、『学校組織調査法』「第8章 保護者の学校信頼を決めるものは何か」を読み、具体的にどのように質問紙を用いた調査研究を進めるかを理解する。自身の調査研究に活かせる点はないか検討する。		
第11回	個別技法:フィールドワーク	自身の調査研究に活かせる点はないか再考する。 次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめ る。	4時間
	現場での観察、インタビュー、エスノグラフィーなど、質 的調査と呼ばれる方法の基本的な考え方を理解する。自身 の研究上の関心の場合、これらの方法を用いてどのような 調査設計が可能か検討してみる。		
第12回	事例③:インタビュー調査	自身の調査研究に活かせる点はないか再考する。 次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめ る。	4時間
	インタビュー調査の事例として、『学校組織調査法』「第3章 スクールリーダーの教育理念や教育観をどのように捉えるか?」を読み、具体的にどのようにインタビューを用いた調査研究を進めるかを理解する。自身の研究に活かせる点はないか検討する。		

第13回	事例④: エスノグラフィー	自身の調査研究に活かせる点はないか再考する。 次回の該当箇所の文献を読み、レジュメをまとめ る。	4時間
	エスノグラフィーの事例として、『学校組織調査法』「第4章 校長はどのような仕事をしているのか?」を読み、具体的にどのようにエスノグラフィーを用いた調査研究を進めるかを理解する。自身の研究に活かせる点はないか検討する。		
第14回	学校組織での調査の実践に向けて	自身の調査研究に活かせる点はないか再考する。 レポートの執筆に向けてリサーチデザインを考え る。	4時間
	学校組織で調査研究を行う場合の調査のデザインの仕方、 調査を行う際に留意すべき事項について、倫理的な配慮も 含めて学ぶ。		

授業科目名	研究方法論Ⅱ				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育学研究に必要な方法論や研究事例を学び、教育学研究を行うために必要な知識や技能を身につける。具体的には 教育・保育を多角的に分析するための視点や方法を修得するために、質的及び量的アプローチによる研究の手法を学ぶことが目的である。とりわけ本論では、心理学的な観点から、観察法、面接法、質問紙調査法、実験法などの各方法論の実証性と限界について理解した上で、研究課題の定め方、研究計画の立て方、研究手法の選び方、分析方法などについての学びを深めることを目的としている。

目標:

教育学研究に必要な方法論や研究事例を学び、教育学研究を行うために必要な知識や技能を身につける。

修士論文の作成にむけた研究方法を理解し修得す

修士論文のテーマと方法をみつける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容:

教育学の研究方法を理解する。

汎用的な力

.DP1.教育学に関する高度な専門知識や教育

2. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題 (5点×15回)

 $5\sim$ 4点:授業外学修を極めて丁寧に行い、演習に積極的に取り組み、構想や実践に大きく貢献している。 3点:授業外学修を丁寧に行い、演習に積極的に取んでいる。 $2\sim$ 1点:授業外学修をもとに、演習に参加している。

75 %

レポート

話題提供の内容を評価する。 $20\sim25$ 点: 各課題の主旨を理解し、参加者にわかりやすく、議論しやすい話題提供を準備してい る。 15~20点:各課題の主旨は概ね理解されているが、参加者にややわかりにくく、議論がやや活性化しにくい話題提供を準備している。 ~15点:各課題の主旨が理解されているとはいいにくく、参加者にもわかりにくく、議論が活性化しにくい話題提供を準備している。

あるいは話題提供を

25 %

使用教科書

ガート・ビースタ(亘理 陽一他 訳)『よい教育研究とは何か』,明石書店,2024年

履修上の注意・備考・メッセージ

・各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められ、各授業回あたり4時間の授業外学修が必要である。 ・初回授業で、受講者の研究関心等をふまえて、受講者の了解のもと、授業計画を変更したり、教科書を指定する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業時間の前後

場所: 授業教室

備考・注意事項: その他連絡方法は、初回の授業で周知します。

削		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	オリエンテーション	次回の予習:学会の編集規程のリサーチ	4時間
	研究方法論1の学習内容や、各自の研究内容を共有し、本 科目のねらいと計画を共有する。		
第2回	学術研究に求められる方法論(1)	次回の予習:先行研究の講読	4時間
	さまざまな学会の編集規程を紹介し合う。		
第3回	学術研究に求められる方法論(2)	次回の予習: 先行研究の講読	4時間
	学会の編集規程から、学術研究に求められる研究方法を考 察する。		
第4回	学術論文に求められる方法論(1)	次回の予習:先行研究の講読	4時間
	学会賞を受賞している原著論文を取り上げ、学術研究に求 められる方法論を論文レベルで考察する。		
第5回	学術論文に求められる方法論(2)	次回の予習:先行研究の講読	4時間
	学会賞を受賞している原著論文を取り上げ、学術研究に求 められる方法論を論文レベルで考察する。		
第6回	実践研究論文に求められる方法論(1)	次回の予習:研究構想紹介	4時間
	学会賞を受賞している実践研究論文を取り上げ、実践研究 に求められる方法論を論文レベルで考察する。		
第7回	実践研究論文に求められる方法論(2)	次回の予習:研究構想紹介	4時間
	学会賞を受賞している実践研究論文を取り上げ、実践研究 に求められる方法論を論文レベルで考察する。		
第8回	研究構想紹介(1)	次回の予習: 文献講読	4時間
	自身の研究構想について、その方法論に焦点を当てて紹介 し、議論する。		
第9回	研究構想紹介(2)	次回の予習: 文献講読	4時間
	自身の研究構想について、その方法論に焦点を当てて紹介 し、議論する。		
第10回	教育研究を問い直す(1)	次回の予習: 文献講読	4時間
	ビースタの『よい教育研究とは何か』を読み、検討する。		
第11回	教育研究を問い直す(2)	次回の予習: 文献講読	4時間
	ビースタの『よい教育研究とは何か』を読み、検討する。		
第12回	教育研究を問い直す(3)	研究計画発表準備(論文紹介)	4時間
***	ビースタの『よい教育研究とは何か』を読み、検討する。		
第13回	教育研究を問い直す(4)	研究計画発表準備(論文紹介)	4時間
	ビースタの『よい教育研究とは何か』を読み、検討する。		
第14回	研究計画と研究方法の選択 修士論文の研究に参考にしたい論文を紹介し、自身の研究	研究計画のブラッシュアップ	4時間
	方法について、より具体的に考える。		
	修士論文の研究に参考にしたい論文を紹介し、自身の研究 方法について、より具体的に考える。		

授業科目名	カリキュラム	開発特論Ⅱ	(リテラシー)		
担当教員名	市川和也				
学年・コース等	1・2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

PISAショック以降、日本はコンピテンシー・ベースの教育改革を推し進めてきた。本授業では、①PISA後に注目されるに至ったリテラシー概念とそれに対する批判の検討、②PISA後のカリキュラム・マネジメントの動向の確認、以上の2点を主軸に検討を行う。授業では文献講読を行い、今日の教育学説の動向を中心に検討を行う。それにより、産業界から要請される能力論を相対化するための視点を得るとともに、カリキュラムを自ら編成するための視座を獲得することを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

DP1.教育学に関する高度な専門知識や教育 技術

リテラシー及び能力論に関する基本的概念や論 点に対する理解

リテラシー及び能力論に関する基本的概念や論点 を理解し、創造的に教育実践で応用することがで きる。

汎用的な力

1. DP 3. 批判的検討に基づく自己の考え方の表 出と他者を尊重した討議・応答

学力および教育評価に関する基本的概念や論点を踏まえ、自己の考えを論理的に述べることができる。

学外連携学修

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・eラーニング、反転授業
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

レポート

学力論の視点から先進的な実践を分析する課題において、個別の実践のみでなく、参考文献や他者 の複数の意見、これまでの歴史的変遷等の視点を含め、あるいは対峙させたものを秀とする。

70 %

授業内の参加度

指定された文献に関して、文献の論点や概要を必要十分に記載するとともに、論点に関して自身の 考えを論述しているものを秀とする。

30 %

使用教科書

指定する

タイトル 出版社 出版年

リテラシー教育はどうあるべきか:現代アメリカにおける概念の相克から読み解く 樋口とみ子 ・ミネルヴァ書房 ・ 2024 年

参考文献等

田村知子 (2022) 『カリキュラムマネジメントの理論と実践』日本標準 (ISBN 4820807315). 松下佳代 (2010) 「〈新しい能力〉概念と教育――その背景と系譜」松下佳代『〈新しい能力〉は教育を変えるか――学力・リテラシー・コンピテンシー』 ミネルヴァ書房 (ISBN 462305859X).

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。 ※各自のテーマ毎の進捗状況に合わせて、授業の順番や内容を一部変更する場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項: 遠隔授業のため、連絡はGoogle Classroomもしくはichikawa.kazuya.85u@gmail.comへお送りください。

自計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	オリエンテーション: リテラシーについて	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	本授業における核概念となるリテラシーに関する論点を確 認する。		
第2回	文献講読①「〈新しい能力〉概念と教育」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	松下佳代(2010)「〈新しい能力〉概念と教育――その背景と系譜」(松下佳代『〈新しい能力〉は教育を変えるか――学力・リテラシー・コンピテンシー』所収)における当該論文をもとにリテラシーの理論的背景を学ぶ。		
第3回	文献講読②「機能的リテラシー論の登場」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	樋口とみ子 (2024) 『リテラシー教育はどうあるべきか: 現代アメリカにおける概念の相克から読み解く』所収の当 該部分をもとに、リテラシーが登場するに至った背景を学 習する。		
第4回	文献講読③「批判的リテラシー論の源流」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	樋口とみ子(2024)『リテラシー教育はどうあるべきか: 現代アメリカにおける概念の相克から読み解く』所収の当 該部分をもとに、批判的リテラシー論の系譜を学ぶ。		
第5回	文献講読④「批判的リテラシー論の提起」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	樋口とみ子 (2024) 『リテラシー教育はどうあるべきか: 現代アメリカにおける概念の相克から読み解く』所収の当 該部分をもとに、批判的リテラシー論の今日的意義を学ぶ。		
第6回	文献講読⑤「ジルーの批判的教育学の思想的基盤」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	樋口とみ子(2024)『リテラシー教育はどうあるべきか: 現代アメリカにおける概念の相克から読み解く』所収の当 該部分をもとに、ジルーのリテラシー論を学ぶ。		
第7回	文献講読⑥「公教育における批判的リテラシー論の具体 化」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	樋口とみ子(2024)『リテラシー教育はどうあるべきか: 現代アメリカにおける概念の相克から読み解く』所収の当 該部分をもとに、批判的リテラシーの育成において公教育 がどのような寄与をすることができるかを検討する。		
第8回	文献講読⑦「文化的リテラシー論の提起」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	樋口とみ子(2024)『リテラシー教育はどうあるべきか: 現代アメリカにおける概念の相克から読み解く』所収の当 該部分をもとに、教育内容の基盤をなす文化的リテラシー 論を学ぶ。		
第9回	文献講読®「ハーシュの文化的リテラシー論の思想的基盤」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	ー・ 樋口とみ子(2024)『リテラシー教育はどうあるべきか: 現代アメリカにおける概念の相克から読み解く』所収の当 該部分をもとに、文化的リテラシー論を牽引するハーシュ の理論を学ぶ。		
第10回	文献講読⑨「文化的リテラシー論の再構築」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	樋口とみ子(2024)『リテラシー教育はどうあるべきか: 現代アメリカにおける概念の相克から読み解く』所収の当該部分をもとに、文化的リテラシー論の今日的形態を検討する。		
第11回	文献講読⑩「ユネスコにおける「自由としてのリテラ シー」の展望」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	種口とみ子(2024) 『リテラシー教育はどうあるべきか: 現代アメリカにおける概念の相克から読み解く』所収の当該部分をもとに、ユネスコにおけるリテラシー論を検討する。		
第12回	文献講読⑪「カリキュラムマネジメントモデルの意義と構 造」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	極口とみ子(2024) 『リテラシー教育はどうあるべきか: 現代アメリカにおける概念の相克から読み解く』所収の当 該部分をもとに、今日のカリキュラムマネジメントの動向 を学ぶ。		
第13回	文献講読⑫「各学校の教育目標と教育課程編成の基本方針」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間
	エリカ (2022) 『カリキュラムマネジメントの理論と実践』所収の当該部分をもとに、カリキュラムマネジメントの理論と方向性を学ぶ。		
第14回	文献講読⑬「カリキュラムマネジメントの実践」	次回授業の検討内容を予習する。	4時間

	田村知子(2022)『カリキュラムマネジメントの理論と実践』所収の当該部分をもとに、カリキュラムマネジメントの実践を学ぶ。		
第15回	文献講読⑭カリキュラムマネジメント批判に見る論点	これまでの学習を総括した課題の作成を行う。	4時間
	教育課程経営論からのカリキュラムマネジメントに対する 批判から、カリキュラムマネジメント論における論点と懸 念点を学ぶ。		

授業科目名	カリキュラム	開発特論Ⅲ	(身体と健康)		
担当教員名	安部惠子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

子どもの学びの履歴としての体育科教育のカリキュラムを開発し実践できる力を育てるために、児童・生徒が主体的に取り組むための学習指導に焦点をあて て、カリキュラム開発のあり方について理解を深める。また、予防医学的見地からみた健康と身体について考察する。中でも本講義では、身体活動と健康、 スポーツと健康の相関的・相乗的な関係の基本理念について、生理的・医科学的な特徴と関係から概説する。また現代社会における子どもの身体に関する健 康課題について、最新の科学的根拠を基に解説し、保育・教育現場で実践可能な解決法の

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 子どもの身体活動を医科学的に理解できる 子どもの身体の機能と構造を理解できる。

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 技術

予防医学的見地および科学的根拠を基に教育現場 における課題とその要因を抽出できる。

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

問答法・コメントを求める : 参考文献および先行研究論文を基に考察、科学的根拠を基にした考察を行った上での問答法とする

60 %

課題レポート : テーマに関する参考文献および先行研究論文を基に考察、科学的根拠を基にした考察を行うこと

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、印刷し配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

毎回の講義における受講者の情況に応じて、シラバスの進度および内容の順序を変更する場合があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:17時から21時場所:中央館2階72

備考・注意事項: 木曜日の17時~21時:研究室にて対応可能。もしくは、本授業受講生にメールアドレスを提示します。

削車		学修課題	授業外学修課題に
第1回	子どもの身体の機能と構造について	成人の身体の機能と構造について事前学習する。	4時間
	本講義の目当てと評価方法について解説後、子どもの身体 の機能と構造について解説する。 特に、成人との相違点を理解した上で、子どもの形態の経 年変化と特性について解説する。		
第2回	運動が子どもの体に及ぼす影響について(1)呼吸循環器 系	呼吸循環器機能について事前学習する	4時間
	運動 (身体活動)が子どもの体に及ぼす影響を解説する。特に、呼吸循環器機能、心拍数、心拍出量について理解し、成人との相違点と特性について解説する。		
第3回	運動が子どもの体に及ぼす影響について(2)エネルギー 供給機構	エネルギー供給機構について事前学習する。	4時間
	運動 (身体活動)が子どもの体に及ぼす影響を解説する。特に、エネルギー供給機構について理解するとともに運動強度についても触れる。		
第4回	運動が子どもの体に及ばす影響について(3)小児肥満	肥満について事前学習する。	4時間
	肥満の定義と評価基準及び方法について解説する。また小 児肥満について、医科学的根拠を基にその特性と成人との 相違点について解説する。		
第5回	子どもの身体活動について (1)予防医科学 的見地からの身体活動	予防医学について事前学習する(文献研究)。	4時間
	予防医学および身体活動の定義と測及び基準について解説 する。また、現在の子どもを取り巻く社会背景を踏まえ、 科学的根拠を基に課題を抽出しその要因について考察する。		
第6回	子どもの身体活動について (2) 身体活動量 の測定方法と意義	身体活動について事前学習する。	4時間
	身体活動の定義と測定方法及び基準について解説する。また、現在の子どもを取り巻く社会背景を踏まえ、科学的根拠を基に身体活動の現状を把握する。		
第7回	子どもの身体活動について (3)子どもの身 体活動量の現状と課題	教育現場での身体活動について事前学習する (文献研究)。	4時間
	科学的根拠を基にした幼稚園、小学校現場における身体活動の現状について解説する。また、教育現場での課題について考察し、その要因について考察する。		
第8回	科学的根拠を基にした体育科教育 (1)体力の概念 と測定の意義と評価	体力測定について事前学習する(文献研究)。	4時間
	体力の定義および行動体力、防衛体力について解説する。 また、測定方法とその意義と活用法、注意転を理解する。		
第9回	科学的根拠を基にした体育科教育 (2)体育授業の 意義と課題	幼児期の運動指針について事前学習する。	4時間
	小学校指導要領(体育)の読み解きと改訂の意義と内容に ついて解説する。また、幼児期の運動指針策定の意義につ いて理解し、体育授業の現状と課題と要因について考察す る。		
第10回	科学的根拠を基にした体育科教育 (3)体育授業に おける身体活動量	体育授業時の身体活動量について事前学習する (文献研究)。	4時間
	体育授業の身体活動量について科学的根拠を基に解説する。また、運動領域に基づいて、1種目選択し、その現状把握を目的としたフィールドワークを行う。		
第11回	新しい体育科教育実践および幼児の運動遊びプログラムの 開発(1)フィールドワークの検証	フィールドワークで得られた情報の検証	4時間
	フィールドワークで得られた情報を基に現状把握を行う。 また、課題抽出を行いその要因を考察する。		
第12回	新しい体育科教育実践および幼児の運動遊びプログラムの 開発(2)アクションプランづくり	フィールドワークで得られた情報の検証	4時間
	フィールドワークで得られた情報を基に現状把握を行う。 また、課題抽出を行いその要因を考察する。		
第13回	新しい体育科教育実践および幼児の運動遊びプログラムの 開発(3)結果検証および省察	フィールドワークで得られた情報の検証および提 案	4時間
	フィールドワークで得られた情報を基に現状把握、課題抽 出を行いその要因を考察し、その解決策を提案する。		
第14回	体育科教育実践および幼児の運動遊びプログラムの研究事 例の発表・ディスカッション	発表準備を行う	4時間
	13回目で得られた解決策を実践し、結果報告階を行いディ スカッションする。		
第15回	フィールドワーク先への研究事例の報告とまとめ	報告資料作成	4時間
	本講義で得られた専門知識を踏まえ、フィールドワークで 得られた科学的根拠の検証および提案について報告をまと める		

授業科目名	カリキュラム開発Ⅳ(表現)				
担当教員名	矢野真				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

子どもの学びの履歴としての表現教育のカリキュラムを開発し、実践できる力を育てるために、子どもが主体的に取り組むための学習指導に焦点をあてて、カリキュラム開発のあり方について理解を深める。特に、造形を中心とした表現のあり方ついて考察する。なかでも子どもの発達との関連から考察を行い、グループ及び自ら計画した実践活動により、子どもの遊びのバーチャル化が進む現代環境のなかで、感覚を総動員した直接体感活動としての造形表現の有効性を理解する。それらを通して、自らの表現において開発したカリキュラムの指導能力を高め、表現活動を総合的に捉え、子どもの表現を指導するための知識や技能・判断力を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 造形表現の諸問題について理解できる。 造形表現の諸問題についての意見交換を通した相 互理解ができる。

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 造形実践などに 出版 またいで発表し

造形実践などにより、教育現場における有効性検 証および発表とまとめを行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ·課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講意欲・態度 : 授業に対する明確な目的や心構えができており、主体的、協同的に学ぼうとする姿勢がみられる

20 %

レポート : 造形表現の根拠や意義、事例などを、しっかりと理解できているか

30 %

発表・制作 : 直接体感活動としての造形表現の有効性が、実践活動を通して分析・考察されているか

50 %

使用教科書

ホイジンガ,『ホモ・ルーデンス』,中央文庫,1973 カイヨワ,『遊びと人間』,講談社学術文庫,1990 佐藤学,『驚くべき学びの世界 レッジョ・エミリアの幼児教育』,ワタリウム美術館,2011

履修上の注意・備考・メッセージ

自己の実践活動だけではなく、他の受講者の実践活動と比較することにより、造形表現の有効性を明確にしていくように心がけてください。毎回の講義における受講者の情況に応じて、シラバスの進度および内容の順序を変更する場合があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項: メール等 (yanom@kyoto-wu. ac. jp) にて行います。初回の授業にて指示します。

集計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	造形表現の根拠	子どもの表現について調べる	4時間
	本講義の目当てと評価方法について解説後、子どもの表現 について解説する。		
第2回	現代社会環境と子どもの発達	現在の社会環境と子どもの発達についての文献調 査	4時間
	表現活動にかかわる現在の社会環境と子どもの発達につい て解説する。		
第3回	造形表現の事例研究(1)- 日本における文献・事例か ら	授業内容以外での日本における過去の文献・事例 の調査	4時間
	これまでの表現活動における造形について、日本における 過去の文献・事例等から理解する。		
第4回	造形表現の事例研究(2)- 世界における文献・事例から	授業内容以外での世界における過去の文献・事例 の調査	4時間
	これまでの表現活動における造形について、世界における 過去の文献・事例等から理解する。		
第5回	造形表現の意義一心的有効性と活動性	授業内容以外での表現活動における研究活動につ いて調査する	4時間
	造形表現の有効性と活動性について、これまでの表現活動 における研究活動等から解説する。		
第6回	造形表現の成り立ち一条件特性と内容	造形表現の事例について理解を深める	4時間
	造形表現の根拠や意義、事例などを通じて、講義形式を通 して理解を深める。		
第7回	造形表現の発案と計画・準備	文献資料の調査・収集	4時間
	造形表現の実践活動を行うための文献資料の収集をグルー プで行う。		
第8回	造形表現の実践活動(1) - 発想・構想	文献資料の収集とまとめ	4時間
	文献資料の収集をグループで行う。それをまとめることに より、造形表現の実践活動についての発想・構想を具体化 する。		
第9回	造形表現の実践活動(2) — 計画	文献資料の準備と計画	4時間
	造形表現の実践活動を行うため、文献資料の収集をグループで行ったものをまとめ、準備・計画を行う。		
第10回	造形表現の実践活動(3) - 実践	計画した実践の振り返り	4時間
	グループで計画した実践活動により、子どもの感覚を総動 員した直接体感活動としての造形表現を実践する。		
第11回	造形表現の実践活動(4) - 実践と報告	発表したプレゼンテーションの振り返り	4時間
	計画した実践活動について、視聴覚機器などを用いたプレ ゼンテーションにより報告を行う。		
第12回	実践活動の分析と考察(1) - 準備と計画	文献資料等の再検討	4時間
	造形表現カリキュラムを確実なものとするため、文献資料 等を再検討し、個別に準備・計画を行う。		
第13回	実践活動の分析と考察 (2) - 作成	実践活動のプレゼンテーション準備	4時間
	自ら計画した造形表現カリキュラムについて、子どもの感 覚を総動員した直接体感活動としての造形表現を個別に検 討し、作成を行う。		
第14回	実践活動の分析と考察(3) - プレゼンテーション	報告の振り返りとまとめの準備	4時間
	自ら検討した造形表現カリキュラムについて、視聴覚機器 などを用いたプレゼンテーションにより報告を行う。		
第15回	実践活動の発表・まとめ	造形表現カリキュラムについてのまとめ	4時間
	本講義で得られた専門知識を踏まえ、自ら検討した造形表 現カリキュラムについて報告をまとめる。		

授業科目名	学校教育実践演習 I				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府立聾学校6年 京	都府公立小学校勤務	520年 京都府教育委員会指	導主事等勤務7年	

授業概要

小学校、幼稚園におけるフィールドワークにより、言語能力育成に関わる諸課題を軸として保育、授業づくりの検討を行う。ボランティアあるいはインターンシップとして学校教育に参加しつつ、参与観察や関係者へのインタビュー等をとおして、多角的、立体的に課題を探究する。その際、大学院生の協働によるフィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。そのことで課題分析を深化させるとともに、解決へ向けて創造的、組織的に実践できる力を

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容:

目標:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

言語能力に係る諸理論及び分析の手法を学ぶ

2. DP 3. 批判的検討に基づく自己の考え方の表 出と他者を尊重した討議・応答

言語能力育成を柱とした学校改善計画の作成

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育技術

2. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

分析した課題を解決するための取り組みを学校改善計画にまとめることができる。

多角的な視点から児童の言語能力育成に係る課題 を分析することができる。

多角的な視点から実態を捉え課題を分析すること ができる。

課題解決のための過程を明確にし、具体性のある 計画を立案できる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ディベート、討論
- 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

> 40 %

プレゼンテーション

期末レポート

各自の保育・学校改善プランについて、説得力のあるプレゼンテーションが行えているか独自の ルーブリックにより評価する。

課題に即して分析し、創造的に考察できているかなど、本学共通のルーブリックに即して評価す

40 %

授業への参加態度

フィールドワークへの参加、討論への積極的な参加等について評価する。

20 %

使用教科書

授業の中で、適宜指定する。

履修上の注意・備考・メッセージ

これからの学校教育実践の在り方を言語能力育成に関わる諸課題を軸としてケースメソッド形式で探求し、フィールドワークを通して、学校教育実践プログラムを開発します。それぞれ課題意識を明確にして、主体的に授業に臨むことを期待します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業後

場所: 中央館2階 辻村研究室

削		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	現代の保育・教育の課題(1)言語能力の育成に関する現 状と課題	受講者各自が関わる保育・教育現場における言語 能力育成に関する現状と問題点をリストアップす る。	4時間
	言語能力の育成に関して、保育もしくは学校教育の現状と課題を探るための視点として、国語の能力、読解力、表現力などのキーワードについて理解を深める。その上で、自分自身の視点を明確にし、各自が関わっている教育現場における現状と課題について考える。		
第2回	現代の保育・教育の課題(2)具体的体験の内省的観察から研究テーマ設定へ	言語能力育成に関する現状と課題が端的に表れた 具体的な場面やエピソードを思い起こしてメモ等 を作成する。	4時間
	教育現場での教職経験や実習経験を振り返って、言語能力 の育成に関する現状と課題を具体的に記述し、各自の研究 テーマの方向を定める。		
第3回	研究手法の検討 「ケース・メソッド」の原理と手法	各自の実践研究の目的と仮説、おおまなか見通し を記述する。	4時間
	実践的な課題解決の手法として「ケース・メソッド」の方 法を使い、各自が想定したケースについてグループで討論 を進め、実践研究の方向を検討する。		
第4回	研究計画の立案(1)仮説の措定と検証過程の検討	各自、「改善案」を検証する方法と具体的な過程 を実践研究計画案としてまとめる。	4時間
	言語能力の育成に係る課題を解決するための「改善案」を 仮説として定め、検証のための方法と具体的な過程を検討 する。		
第5回	研究計画の立案(2)フィールドリサーチとフィールド ワーク①(観察的参与)計画の検討	受講者が関係する保育・教育現場でフィールド ワークを実施し、その結果を報告する準備をす る。	4時間
	観察的参与に関する基本的な内容を学び、各自が関わる教育現場をフィールドとして調査、観察等を行う方法を検討 し、現状と課題を捉えるための具体的な計画を立案する。		
第6回	フィールドワーク①の省察(1)体験事象・観察事象の記述と共有化	グループ交流を通して深めた考察をレポートにま とめる。	4時間
	フィールドワークを通して得た体験、調査、観察の結果を ケースとして記述する方法を学び、グループで共有するこ とを通して考察を深める。		
第7回	フィールドワーク①の省察(2)体験・観察の分析・検討 による仮説の検証	グループ交流を通して深めた考察をレポートにま とめる。	4時間
	フィールドワークで得たケースについて、課題解決のため の方策についてグループ、クラスで討論し仮説を立てる。		
第8回	フィールドワーク②(能動的・実験的参与)計画の立案	フィールドワークの計画を具体化し、各自が関係 する保育・教育現場でフィールドワークを実施す る。	4時間
	フィールドワーク?で得た課題解決の方策を仮説として、それを検証するための能動的・実験的参与の方法を学び、フィールドワーク②の具体的な計画を立てる。		
第9回	フィールドワーク②の省察(1)能動的・実験的参与から 得た結果の記述と共有化	フィールドワークの結果とグループ交流で得た考 察をまとめる。	4時間
	フィールドワーク②を通して得た課題解決の方策について 、その結果をケースとして記述する方法を学び、グループ で共有することを通して考察を深める。		
第10回	フィールドワーク②の省察(2)能動的・実験的参与から 得た結果の分析・検討	グループ交流で深めた考察をレポートにまとめ る。	4時間
	フィールドワークで得たケースについて、課題解決のため の方策の成果や効果についてグループ、クラスで討論し、 考察を深める。		
第11回	フィードバックを通した考察・・・フィールドワーク先の教 員等へのフィードバックと協議	保育・教育現場へのフィードバックを行い、その 評価と助言をまとめる。	4時間
	フィールドワーク先の教員等へフィードバックするために 、2回のフィールドワークで得た結果をまとめ、記述する。		
第12回	フィールドワークの総括・・・仮説、検証、理論化の過程を ストーリーとして記述	実践研究のストーリーをプレゼンテーションする 説明スライドを作成する。	4時間
	これまでの実践研究の過程を仮説→検証→理論化のストー リーとして記述し、グループで交流することで相互に精査 し、考察を深める。		

第13回	学校教育実践の提言(1) 言語力育成に関わる保育・学 校改善プランの立案と検討	保育改善プラン・学校改善プランの説明スライド を作成する。	4時間
	これまでの研究成果を「保育改善プラン」または「学校改善プラン」としてまとめ、グループで交流することでプラッシュアップする。		
第14回	学校教育実践の提言(2) 言語力育成に関わる保育・学 校改善プランのプレゼンテーション	自分のプレゼンテーションを省察し、成果と課題 をまとめる。	4時間
	各自の改善プランをプレゼンテーションし、相互に評価や 助言を行うことで、さらにブラッシュアップを図る。		
第15回	研究活動全体の省察と今後の研究課題の検討	本授業で得た学びを整理し、まとめる。	4時間
	これまでの授業で学んできた、現状把握、課題分析、問題 解決の手法を整理し、そこで得た内容的な学びと方法的な 学びについて省察し、現場での実践に、向けての展望を持 つ。		

授業科目名	学校教育実践演習 Ⅱ					
担当教員名	橋本隆公					
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2	
授業形態	演習					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する					
実務経験の概要	大阪市立小学校教諭9年 育実践研究・総合的学習	間・大阪教育大学附 実践研究・幼小中高	属平野小学校教諭9年間・同主 系特別支援共同研究・保護者参	幹教諭2年間・同副 画・学校運営	校長2年間 主に、第	 [数科教

授業概要

大学院生と教員による協働研究を通じて、幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム開発と、保育・授業づくりの検討を行う。その際、大学院生による小学校や幼稚園での「フィールドワーク」と、大学院生の協働によるフィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。そうすることで、幼稚園・小学校現場で中心的な役割を担いながら、創造的なカリキュラム開発と保育・授業づくりを組織的に実践できる力を身につけることができる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

1. DP 3. 批判的検討に基づく自己の考え方の表 幼治出と他者を尊重した討議・応答 総

幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と 総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム 開発と、保育・授業づくりのプログラムを検討 し、実践を通して省察する。

これからの学校教育実践の在り方をケース・メ ソッド形式で学び、フィールドワークを通して、 学校教育実践プログラムを開発することができ る。

目標:

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 技術

2. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム開発 小学校や小稚園での「フィールドワーク」と、大

小学校や幼稚園での「フィールドワーク」と、大 学院生の協働によるフィールドワークの省察を 「ケース・メソッド」で取り組む。

学外連携学修

有り(連携先:大阪教育大学附属平野小学校など)

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

第1回から第6回までの毎回のレポート : 幼稚園と小学校との異校種間連携や、算数科と総合的な学習等の教科領域横断的カリキュラム開発

30 %

新しい学校教育実践プログラムの案、及び 省察 : 小学校や幼稚園での「フィールドワーク」

40 %

発表・ディスカッション・まとめ : フィールドワークの省察を「ケース・メソッド」で取り組む。

30 %

使用教科書

特になし (適時、配付する)

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 火曜日の本授業前後

場所: 橋本研究室

備考・注意事項: 必要に応じて、水曜日以外の17:10以降も対応できます。いずれにしても、メールでアポイントをお願いします。

性計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	ガイダンス、及び、各学校の特色	勤務校園の特色のレポート	4時間
	これからの学校教育実践のあり方(1)全ての教職員で創 り上げる各学校の特色		
第2回	各学校のカリキュラム	勤務校園のカリキュラムのレポート	4時間
	これからの学校教育実践のあり方(2)カリキュラム・マ ネジメント		
第3回	異校園種連携	勤務校園の異校園種連携のレポート	4時間
	これからの学校教育実践のあり方(3)幼稚園・小学校・ 中学校との連携		
第4回	保護者・地域との連携	勤務校園の保護者・地域連携のレポート	4時間
	これからの学校教育実践のあり方(4)保護者の参画とコ ミュニティースクール		
第5回	海外比較	海外の教育事例のレポート	4時間
	これからの学校教育実践のあり方(5)オーストラリアの 学校教育実践「プレップ」に学ぶ		
第6回	アクティブ・ラーニングの推進	勤務校園のアクティブ・ラーニングのレポート	4時間
	これからの学校教育実践のあり方(6)算数科・総合的な 学習を例にしたアクティブラーニング		
第7回	プログラム開発(1) 計画	計画書作成	4時間
	新しい学校教育実践プログラムの開発(1)プランづくり		
第8回	プログラム開発(2) 検討	計画書修正	4時間
	新しい学校教育実践プログラムの開発(2)プランの検討		
第9回	プログラム開発(3)プランの共有	具体案作成	4時間
	新しい学校教育実践プログラムの開発(3)フィールドワ ーク先とのプランの共有		
第10回	プログラム開発(4) 実践の実施	実践記録作成	4時間
	新しい学校教育実践プログラムの開発(4)フィールドワ 一ク先での教育実践		
第11回	プログラム開発(5) 実践の省祭	実践のレポート	4時間
	新しい学校教育実践プログラムの開発(5)フィールドワ 一ク先との省察		
第12回	プログラムの開発(6) 省祭	振り返りのレポート	4時間
	新しい学校教育実践プログラムの開発(6)省察		
第13回	プログラムの改善	アクションプラン作成	4時間
	新しい学校教育実践プログラムの開発(7)アクションプ ランづくり		
第14回	発表会	フィールドワーク先への報告に関するレポート	4時間
	学校教育実践プログラムの研究事例の発表・ディスカッション		
第15回	総括	まとめのレポート	4時間
	フィールドワーク先への研究事例の報告とまとめ ※各自、フィールドワーク先へ、報告を済ませた上で、第1 5回に取る組む		

授業科目名	対人援助特論				
担当教員名	岩崎久志				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	1997年以降、高等学校をはじめとした教育現場においてスクールカウンセラーとして実践を重ねてきている。				

授業概要

今日、教育をめぐる問題は複雑多様化してきている。不登校、いじめ、貧困、虐待など、学校は子どもが抱える様々な課題に直面している。そのような状況 にあって、すべての問題に教員のみで対応するのはもはや困難である。本授業では、より広い見地から教育実践の省察を通して問題解決を模索していく。実 践的な学びとして、スクールカウンセリングやスクールソーシャルワークなどを活用した「チーム学校」を念頭に置き、さらにコミュニティにおける多様な 対人援助の協働による支援のあり方を検討する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容:

目標:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

教育コミュニティモデルの構築について理解 を深めていくとともに、学校と家庭および地域 の相談機関などが協働して教育実践を行うため の課題と展望について検討する。 「チーム学校」を念頭に置き、コミュニティにおける多様な対人援助の支援のあり方について理解し、援助実践に積極的に関与、協働できるための知識を身につける。

汎用的な力

1. DP1.教育学に関する高度な専門知識や教育技術

2. DP 3. 批判的検討に基づく自己の考え方の表 出と他者を尊重した討議・応答 教育現場や地域が抱える問題を発見するアセスメントの能力を身につけ、具体的に取り組むべき課題として提示できるための力を修得する。

広い意味での対人援助に携わる者として、必要最 低限の傾聴能力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業における積極的な参画、ディスカッション、発表 : 授業への積極的な姿勢や習熟度を評価します。

40 %

期末レポート試験 : 試験期間内のレポート試験において習熟度を確認・評価します。

60 %

使用教科書

指定する

著者 タイトル 出版社 出版社 出版年

岩崎久志 ・ 対人援助に活かすカウンセリング ・ 晃洋書房 ・ 2020 年

岩崎久志『ストレスとともに働く - 事例から考えるこころの健康づくり - 』晃洋書房、2017年 岩崎久志『学び直しの現象学 - 大学院修了者への聞き取りを通して - 』晃洋書房、2020年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:授業の前後場所:授業の教室

備考・注意事項: メールアドレスを開示するので、活用願いたい。Hisashi_Iwasaki@red.umds.ac.jp

性計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	対人援助の概念	自身のフィールドと関わりのある対人援助の領域 について調べる。	4時間
	対人援助の概要と現状について学ぶ。		
第2回	学校教育と対人援助の関係	「チーム学校」を視野に入れて、学校現場にどの ような対人援助職が支援に関わっているのか調べ る。	4時間
	学校教育、特に学校現場と関わる対人援助および専門職に ついて学ぶ。		
第3回	今日の学校をめぐる問題(1)不登校、いじめ、暴力行為	学校をめぐる問題行動の諸相と現状(データ)について調べる。	4時間
	学校をめぐる問題行動の諸相と現状について学ぶ。		
第4回	今日の学校をめぐる問題(2)貧困、虐待など、家庭の養 育機能の低下	福祉的な視点も視野に入れて、学校をめぐる問題 行動の諸相と現状(データ)について調べる。	4時間
	学校をめぐる問題行動の諸相と現状について学ぶ。特に、 子どもを取り巻く環境要因を理解する。		
第5回	今日の学校をめぐる問題(3)教師の多忙化、メンタルへ ルス不調など	教師の多忙化、メンタルヘルス不調など、教師の 労働環境について調べる。	4時間
	今日の「働き方改革」の議論を念頭に置いて、教師の多忙 化、メンタルヘルス不調について学ぶ。		
第6回	「チーム学校」における学際性の重要性〜生徒指導、教育 相談を視野に〜	いわゆる「チーム学校」の概念と現状について調 べる。	4時間
	「チーム学校」の概要を踏まえて、そこにおける学際的な 連携協働の重要性について学ぶ。		
第7回	臨床教育学における学際性の概念について	臨床教育学とはどのような学問か、調べておく。	4時間
	臨床教育学の概要(ディシプリン)と学際性の重要性につい て学ぶ。		
第8回	「チーム学校」と対人援助(1)スクールカウンセリング	スクールカウンセリングの概要について調べる。	4時間
	スクールカウンセリングの概要、現状と課題について学ぶ 。		
第9回	「チーム学校」と対人援助(2)スクールソーシャルワー ク	スクールソーシャルワークの概要について調べ る。	4時間
	スクールソーシャルワークの概要、現状と課題について学 ぶ。		
第10回	「チーム学校」と対人援助(3)特別支援教育等の実践	特別支援教育の概要について調べる。	4時間
	特別支援教育等の概要、現状と課題について学ぶ。		
第11回	教育コミュニティにおける学校・家庭・地域の連携のあり 方	学校・家庭・地域の連携の現状と課題について調べる。	4時間
	有効な教育コミュニティの実現に向けた、学校・家庭・地 城の連携のあり方について学ぶ。		
第12回	地域における社会資源の活用(1) 専門相談機関、専門職	地域の社会資源にはどのようなものがあるか、特 に専門相談機関および専門職について調べる。	4時間
	地域における社会資源、特に専門相談機関および専門職の 活用方法について学ぶ。		
第13回	地域における社会資源の活用(2)インフォーマルな資源	地域の社会資源にはどのようなものがあるか、インフォーマルなものについて調べる。	4時間
	地域における社会資源、中でもインフォーマルなものの活 用方法について学ぶ。		
第14回	まとめ〜実効性のある「チーム学校」の実現に向けて〜	実効性のある「チーム学校」とはどのようなもの か、それぞれが思い描くあり方をまとめる。	4時間
	実効性のある「チーム学校」の実現に向けて、対人援助の あり方について学ぶ。		

授業科目名	地域教育実践演習 I				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

地域には学校以外にも教育を支える様々な組織や人々が活動している。例えば、学校にいけない子供たちの居場所を提供するフリースクールの活動、地域の歴史や文化を教える活動、諸外国の人々との交流を図る活動などである。これらの活動を支えているのは、(広い意味での)ボランティアや非営利組織(NPO)であることが多い。本科目では、地域における学校以外の教育組織に着目し、実際にこれらの組織でフィールドワークを行いながら、地域教育にかかわる組織の活動とその意義について検討する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容:

目標:

1. DP1.教育学に関する高度な専門知識や教育 技術 文献・研究論文を通じて、教育に関する知見を 検討する。

地域教育に関する学術的理論を理解することができる。

汎用的な力

1. DP 4. 客観的・論理的考察の展開による独創的・有用な研究の遂行

先行知見を理解したうえで、独自性を持つ研究課題を設定することができる。

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

試験

70 %

授業で示す課題

:

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、授業内で参考となる資料を紹介・配付する。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 初回授業でお知らせします。

場所: 中央館5階研究室

計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	地域教育論の考え方	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	地域教育の歴史と現状について検討する。		
第2回	学校・家庭・地域の協働	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	学校、家庭、地域(行政やNPOなど)が連携して教育を担う あり方について検討する。		
第3回	地域教育と市民社会	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	シチズンシップの考え方とそこでの地域の役割について検 討する。		
第4回	研究方法論基礎:参与観察法とインタビュー法	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	参与観察とインタビューの方法について基礎的事項を学ぶ 。		
第5回	事前学習(不登校児童生徒支援)	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	不登校の現状とその支援について学ぶ。		
第6回	フィールドワーク(不登校児童生徒支援)①活動の概要把 握	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	NPOでのフィールドワークを通じて活動概要とミッションを 学ぶ。		
第7回	フィールドワーク(不登校児童生徒支援)②活動への参加	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	NPOにおいて参与観察を実施する。		
第8回	フィールドワーク(不登校児童生徒支援)③活動への主体 的かかわり	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	NPOの活動に主体的にかかわり、その意義について検討する。		
第9回	中間指導:これまでの活動の振り返りと今後の課題の明確 化	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	前半のフィールドワークから得た知見を整理し、後半のフィールドワークで注目する点を明確にする。		
第10回	事前学習(防災・まちづくり教育)	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	防災・まちづくり教育の現状と課題について学ぶ。		
第11回	フィールドワーク(防災・まちづくり教育)①活動の概要 把握	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	NPOでのフィールドワークを通じて活動概要とミッションを 学ぶ。		
第12回	フィールドワーク(防災・まちづくり教育)②活動への参 加	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	NPOにおいて参与観察を実施する。		
第13回	フィールドワーク(防災・まちづくり教育)③活動への主 体的かかわり	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	NPOの活動に主体的にかかわり、その意義について検討する。		
第14回	地域教育の実際	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	これまでのフィールドワークから地域教育の現状と課題に ついて検討する。		
第15回	成果報告会	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	これまでのフィールドワークで得られた知見を報告する。		

授業科目名	地域教育実践演習Ⅱ				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「地域教育実践演習 I」において、フィールドワークを通じて、学校以外の地域教育組織について身に着けた知見をさらに展化・深化させることを目的とする。つまり、地域において、学校とは異なる目的や方法によって活動する教育組織の意義を理解した上で、地域にとってより効果的な学校と地域組織との協働のあり方を模索する。フィールドワークを通じて地域教育の活動に関わりながら、学校を含めた多様な教育機関の協働が、地域教育にもたらす可能性と課題を検討する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

目標:

DP1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 文献・研究論文を通じて、教育に関する知見を 検討する。

汎用的な力

1. DP 4. 客観的・論理的考察の展開による独創的・有用な研究の遂行

先行知見を理解したうえで、独自性を持つ研究課題を設定することができる。

地域教育に関する学術的理論を理解することがで

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

50 %

成果報告

50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、授業内で参考となる資料を紹介・配付する。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 初回授業でお知らせします。

場所: 中央館5階研究室

性計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	地域教育論の整理	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	地域教育に関する理論を整理する。		
第2回	コミュニティの再生と学校改革①: 考え方の整理	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	今日の教育改革が教育コミュニティにもたらす影響につい て検討する。		
第3回	コミュニティの再生と学校改革②:事例の検討	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	教育コミュニティの活動事例について検討する。		
第4回	研究方法論基礎:質問紙法と統計処理	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	質問紙法と統計処理について基礎的事項を学ぶ。		
第5回	事前学習(多文化教育)	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	多文化教育の現状とその取組みについて学ぶ。		
第6回	フィールドワーク(多文化教育)①活動の概要把握	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	NPOでのフィールドワークを通じて活動概要とミッションを 学ぶ。		
第7回	フィールドワーク(多文化教育)②活動への参加	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	NPOにおいて参与観察を実施する。		
第8回	フィールドワーク(多文化教育)③活動への主体的かかわ り	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	NPOの活動に主体的にかかわり、その意義について検討する。		
第9回	中間指導:これまでの活動の振り返りと今後の課題の明確 化	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	前半のフィールドワークから得た知見を整理し、後半のフィールドワークで注目する点を明確にする。		
第10回	事前学習 (特別支援)	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	特別支援教育の現状とその取組みについて学ぶ。		
第11回	フィールドワーク(特別支援)①活動の概要把握	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	NPOでのフィールドワークを通じて活動概要とミッションを 学ぶ。		
第12回	フィールドワーク(特別支援)②活動への参加	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	NPOにおいて参与観察を実施する。		
第13回	フィールドワーク(特別支援)③活動への主体的かかわり	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	NPOの活動に主体的にかかわり、その意義について検討する。		
第14回	地域教育の意義と課題	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	これまでのフィールドワークから地域教育の現状と今後の 展開について検討する。		
第15回	成果報告	授業内容について要点を整理し、次回授業のキー ワードについて概要を整理してください。	4時間
	これまでのフィールドワークで得られた知見を報告する。		

授業科目名	教育組織開発特論					
担当教員名	保田直美					
学年・コース等	1.2年	開講期間	後期	単位数	2	
授業形態	講義					
実務経験のある教 員による授業科目						
実務経験の概要						

授業概要

教育にかかわる集団や組織を社会関係資本や組織論の観点から検討し、教育効果を生みだす組織開発について考察する。具体的には学級集団、教職員集団、地域社会に着目し、友人関係、教師と生徒の関係、校長のリーダーシップ、家族・保護者との協働などを取り上げる。ただ、特定の条件を満たせば、必ず教育効果が上がるというものではないことも事例を通じて示し、教育組織の開発には、個々の条件や環境を考慮した多様な取り組みが必要であることを検討する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容:

目標:

教育組織開発に関する学術的理論を理解すること ができる。

汎用的な力

1. DP 4. 客観的・論理的考察の展開による独創的・有用な研究の遂行

先行知見を理解したうえで、独自性を持つ研究課 題を設定することができる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

試験

: 授業で扱った教育組織開発にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示すことができる点を評価する。

70 %

授業内に示す課題

授業で扱った教育組織開発にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示 すことができる点を評価する。

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

渡辺深『組織社会学』(ミネルヴァ書房、2007年 ISBN9784623048830) 大野裕己・露口健司『日本の教職論』(放送大学教育振興会、2022年、ISBN9784595323140) 髙木俊雄・四本雅人編『マクロ組織論(経営組織論シリーズ1)』(学文社、2019年、 ISBN9784762029028) 竹内倫和・福原康司編『ミクロ組織論(経営組織論シリーズ2)』(学文社、2019年、 ISBN9784762029035) 鈴木雅博『学校組織の解剖学』(勁草書房、2022年、ISBN9784326251605)

ほか、授業中に適宜示す。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 初回授業でお知らせします。

場所: 中央館5階階研究室

性計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	組織開発とは何か	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	バーナードの組織の定義をもとに組織とは何かを学ぶ。組 織の構成員自らが変革の主体となり、組織の健全さを高め 、組織を発展させていく、組織開発の基本的な考え方につ いて知る。		
第2回	官僚制組織の機能と逆機能	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	組織モデルについての考え方は、組織内部の力学に焦点をあてる閉鎖システムのモデルと、組織と環境の相互依存性に焦点をあてる開放システムのモデルに分類することができる。ここでは閉鎖システムモデルの代表的な例として、合理的な組織モデルである官僚制組織についてとりあげ、その特徴と機能・逆機能を学ぶ。		
第3回	組織化モデルと学校	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	開放システムモデルの代表的な例として、非合理的な組織 モデルである、ワイクの組織化モデルをとりあげる。この モデルは、組織化の過程に焦点を置き、組織のあいまいさ に着目する。あいまいさを持つ組織としての学校について 考える。		
第4回	校内組織と教員の関わり	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	学校内部の組織の基本的な仕組みを学ぶ。その後、組織の 個業化・協業化の現在と、それが教育活動に与える影響に ついて考える。		
第5回	「チーム学校」における多職種協働	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	「チーム学校」の考え方と学校における教員と教員以外の 専門職の関わりについて学ぶ。それによる専門職としての 教師役割の変化について考える。		
第6回	保護者との信頼構築	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	教員と保護者との信頼をどのように構築することができる かを、学校に対する期待度・協力度で分類した保護者のカ テゴリーを踏まえながら考える。保護者の社会関係資本が 分類に与える影響についても考える。		
第7回	地域と学校の連携	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	近年、学校と地域が協力して子どもの教育にあたることが 重視されている。学校運営協議会を導入した学校であるコ ミュニティ・スクールに着目し、その活動と課題について 考える。		
第8回	学校組織のエスノメソドロジー	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	学校組織における実践を、教師が具体的にどのように成立させているかを学校組織のエスノメソドロジー研究から学ぶ。鈴木雅博『学校組織の解剖学』 (勁草書房) の一部をとりあげる。		
第9回	集団行動とダイナミクス	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	人が集団を形成したときに生じるグループのダイナミクス について学ぶ。集団凝集性など集団が持つ特性、集団が意 思決定する際に起こりうるデメリット、その解消方法など について考察する。		
第10回	学級経営と「集団のまとまり」	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	学級経営を行う際に、集団のまとまりを強くしようとする ことのメリットとデメリットについて、グループダイナミ クスの観点から考える。		
第11回	教師の同僚性	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	学校改善を促す「同僚性」という組織文化について学ぶ。 その上で、現在の同僚性のありようの実際を調査データか ら確認し、今後の協働のあるべき姿を考える。		
第12回	リーダーシップと学校	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	組織のメンバーをひとつの方向にまとめるために必要なリーダーシップについての理論を学ぶ。学級担任に求められるリーダーシップについても考える。		
第13回	組織学習と学校	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間

	人と同じように組織も学習をすると言われている。組織が 学習をし成果を得ていくことで、組織は存続・発展してい く。その学習のために何が必要となるかを学ぶ。第12回・ 第13回の学習をもとに、学校経営を進める上での校長のリ ーダーシップについても考える。		
第14回	組織コミュニケーションと学校	授業内容を復習する。次回の授業に使用する資料 を読み、概要を理解しておく。	4時間
	組織における問題はコミュニケーションの中から生じることを学ぶ。また問題を「見える化」するという対処だけでは、無自覚な問題は解き明かせないため、対話などにより相互理解を推進する必要があることを学ぶ。		
第15回	学校組織の風土と開発	授業内容を復習し、現在関わりのある学校の組織 について、これまでに得た知識をもとに、組織の 課題や組織開発の方向性について考える。	4時間
	組織に横たわっている雰囲気(風土)が組織に及ぼす影響と、組織に介入し、組織風土を健全な状態にしていく方法について学ぶ。問題の発見・解決を目指す古典的な組織開発と、社会構成主義的な世界観をベースに、理想や組織の強みの実現を目指す新しい組織開発の双方を知り、学校でどのように組織開発を行っていくかを考える。		

授業科目名	コミュニティ・スクール特論					
担当教員名	西孝一郎					
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2	
授業形態	講義、演習、学校参観					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する					
実務経験の概要	コミュニティ・スクール ニティ・スクール推進員	で教頭・校長を経り (CSマイスター)、	¢。教育委員会でコミュニティ 奈良県CS(コミュニティ・ス	・スクールの実施を クール)アドバイ†	と支援。元文部科学省コミュ デー	

授業概要

まず、コミュニティ・スクールの概要を知り、コミュニティ・スクールの目的と活動を理解できるようにする。次に、テキストを使って、今後の研究目的や研究方法を理解する。3番目に、テキストを輪読し、コミュニティ・スクールの制度や学校運営協議会の活動について、グループワーク等を通して理解できるようにする。さらに、コミュニティ・スクールの実地研修を行い、コミュニティ・スクールについての自分の考えをまとめることができるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 技術 学校・家庭・地域が連携して課題を解決してい く意義と方法について理解する。 コミュニティ・スクールの概要を理解する。

2. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 コミュニティ・スクールが設置

コミュニティ・スクールが設置されてきた経 緯・成果・課題を研究する。 コミュニティ・スクールの成果と課題をまとめる ことができる。

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 技術 テキストの読解を通して、地域を扱う研究の方法 を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

学校参観レポート : コミュニティ・スクール運営の視点に沿って、自分なりにまとめることができている。

30 %

最終レポート(定期試験) : 講義をもとに、「未来の学校づくり」を、自分なりにまとめることができている。

50 %

ワークショップへの参加度(担当部分の発表) : 担当部分の発表準備を適切に行い、発表することができている。

20 %

使用教科書

指定する

著者 タイトル 出版社 出版社

・ 2023 年

参考文献等

「コミュニティ・スクールのつくり方」(2020, 文部科学省) 「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究 実施報告書 第 Π 部」(2021, 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社) 「令和6年度 コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況について」(2024, 文部科学省)

• 悠光堂

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:各授業終了後場所:授業の教室

備考・注意事項: メールでの質問、意見も可 nishi-k@g. osaka-seikei. ac. jp

	nisni-kwg. osaka-seikei. ac. jp		
集計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	オリエンテーション コミュニティ・スクールについての 認識を交流	1. コミュニティ・スクールに関する経験が話せるようにまとめておく。2. コミュニティ・スクールのパンフレット(文部科学省)を見つけ、読んでおく。	4時間
	まず、本授業の計画を知り、見通しをもつ。本授業では、「みんなで創ろうコミュニティ・スクール」のテキストを使用し、コミュニティ・スクールについての理解を深めるとともに、研究の方法を学ぶことも目的とする。本授業で扱うコミュニティ・スクール(学校運営協議会制の学校がすでにコミュニティ・スクールになっている。このような現状も含めて、本授業に対する見通しをもてるようにしたい。		
	、次に、コミュニティ・スクールについて知っていることを交流する。コミュニティ・スクールについては、すでに取り組んだ経験をもつ受講生ともたない受講生の間で、認識の差が大きい。そこで、コミュニティ・スクールという言葉から受けるイメージを交流するにとどめる。この交流を通して、「コミュニティ」に対する捉え方を、ある程度そろえておきたい。		
第2回	コミュニティ・スクールの導入(目的と組織)	1. 『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』 (悠光堂)の「はじめに」の部分を読み、コミュニティ・スクールに関する疑問をまとめておく。 2. 自分の住んでいる地域のコミュニティ・スクール導入状況を調べる。	4時間
	まず、コミュニティ・スクールの目的や組織作りについての説明を受ける。ここでは、コミュニティ・スクールの目的や組織作りを理解し、これからの学修の方向を定めることができるようにする。		
	また、コミュニティ・スクールにおける「承認」の意味を正しく理解し、法的根拠に基づくコミュニティ・スクールであることがわかるようにする。 ここでは、今後の授業の中で取り上げる課題を明確にし、主体的にコミュニティ・スクールの問題に向き合い、多面的な理解ができるようにしていく。		
第3回	コミュニティ・スクールの運営と成果	1. 『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』 (悠光堂)の「はじめに」の部分を読み、コミュニティ・スクールに関する疑問をまとめておく。 2. 自分の住んでいる地域のコミュニティ・スクール導入状況を調べる。	4時間
	まず、コミュニティ・スクールの運営について、基礎的な事項の説明を受ける。ここでは、学校運営協議会が主体的に運営されるために必要なことを確認する。次に、コミュニティ・スクールの導入によって得られる成果の一部を知り、今後の学修に対して、見通しを持てるようにする。		
第4回	コミュニティ・スクールの論点整理	1. 『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』 (悠光堂) (第1部 論点整理) を読み、自分なりにレジュメにまとめる。2. テキストを読んで考えたことをまとめておく。	4時間
	テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』(第1部 コミュニティ・スクールの論点整理)を読み、ま とめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの 目的を理解する。 まず、コミュニティ・スクールが生まれてきた経緯を理 解する。 次に、地域学校協働活動について理解する。		
	テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』(第1部 コミュニティ・スクールの論点整理)を読み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの目的を理解する。まず、コミュニティ・スクールの三段活用によって地域力が生まれることを理解する。次に、これから、学校が地域に何ができるのかを考える。		
第6回	コミュニティ・スクールのつくり方	1. 『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』 (悠光堂) (第2部 コミュニティ・スクールの つくり方)を読み、自分なりにレジュメにまとめ る。2. テキストを読んで考えたことをまとめて	4時間

	デキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』(第2部 コミュニティ・スクールのつくり方)を読み、ま とめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクール設 置の手順を理解する。 まず、コミュニティ・スクール設置のために教育委員会		
	が果たす役割を理解する。 次に、コミュニティ・スクール導入の目的を考える。		
	テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』(第2部 コミュニティ・スクールのつくり方)を読み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクール設置の手順を理解する。 まず、コミュニティ・スクール導入のための手順と段取りを理解する。 次に、コミュニティ・スクール設置によって変わってきたことについて考える。		
第8回	コミュニティ・スクールをめぐるQ&A	1. 『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』 (悠光堂) (第3部 コミュニティ・スクールを めぐるQ&A) を読み、自分なりにレジュメにまと める。2. テキストを読んで考えたことをまとめ ておく。	4時間
	デキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』(第3部 コミュニティ・スクールをめぐるQ&A)を読み、まとめの発表を聞てことにより、コミュニティ・スクールに関する疑問を整理する。 最初に、学校評議員との違いについて考える。2番目に、従来の学校との違いを考える。3番目に、イギリス型のコミュニティ・スクールについて知る。4番目に、高等学校におけるコミュニティ・スクールについて考える。5番目に、学校運営協議会と学校理事会の違いについて考える。6番目に、働き方改革とコミュニティ・スクールの関係について考える。7番目に、社会に開かれた教育課程とコミュニティ・スクールの関係について考える。		
	テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』(第3部 コミュニティ・スクールをめぐるQ&A)を読み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールに関する疑問を整理する。最初に、コミュニティ・スクールとPTAとの関係について考える。2番目に、スクール・コミュニティという考え方について考える。3番目に、部活動の地域移行という考えの中でコミュニティ・スクールが果たす役割について考える。4番目に、熟議について考える。最後に、コラムを読んで考えたことを発表する。		
第10回	コミュニティ・スクールの基本的な考え方	1. 『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』 (悠光堂) (第4部 コミュニティ・スクールの 基本的な考え方) を読み、自分なりにレジュメに まとめる。2. テキストを読んで考えたことをま とめておく。	4時間
	デキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』(第4部 コミュニティ・スクールの基本的な考え方)を読 み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スク ールの基本的な考え方を理解する。 まず、コミュニティ・スクールの法的根拠について考え る。次に、学校運営協議会と関係機関の関係について考え る。さらに、コラムを読んで考えたことを発表する。		
第11回	コミュニティ・スクールの実際	1. 『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』 (悠光堂) (第5部 コミュニティ・スクールの 実際) を読み、自分なりにレジュメにまとめる。 2. テキストを読んで考えたことをまとめてお く。	4時間
	テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』(
	第5部 コミュニティ・スクールの実際)を読み、まとめの発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの実際を理解する。まず、コミュニティ・スクールのさまざまな実施形態について知る。次に、イギリスの学校理事会について知る。さらに、スウェーデンやイタリアでの取組と日本のコミュースのと映るとまさる。		
第12回	の発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの実際 を理解する。 まず、コミュニティ・スクールのさまざまな実施形態に ついて知る。次に、イギリスの学校理事会について知る。	1. 学校運営協議会の具体的な姿について、自分なりの人よいでもよりのでもなって	4時間
第12回	の発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの実際を理解する。 まず、コミュニティ・スクールのさまざまな実施形態について知る。次に、イギリスの学校理事会について知る。さらに、スウェーデンやイタリアでの取組と日本のコミュニティ・スクールの比較から考える。	1. 学校運営協議会の具体的な姿について、自分なりのイメージをまとめておく。	4時間
第12回	の発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの実際を理解する。まず、コミュニティ・スクールのさまざまな実施形態について知る。次に、イギリスの学校理事会について知る。ここティ・スクールの比較から考える。 学校運営協議会の実践に学ぶ(実地研修) 学校運営協議会の実際を見ることにより、これまで学んできたコミュニティ・スクールの理論と実践をつなげていく。まず、大阪府内のコミュニティ・スクールを参観し、学校運営協議会に参加することにより、学校運営協議会の具体的なイメージをもつ。会集の方と直接話すことにより、		4時間
	の発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの実際を理解する。 まず、コミュニティ・スクールのさまざまな実施形態について知る。次に、イギリスの学校理事会について知る。 さらに、スウェーデンやイタリアでの取組と日本のコミュニティ・スクールの比較から考える。 学校運営協議会の実践に学ぶ(実地研修) 学校運営協議会の実際を見ることにより、これまで学んできたコミュニティ・スクールの理論と実践をつなげていく。 まず、大阪府内のコミュニティ・スクールを参観し、学校運営協議会に参加することにより、学校運営協議会の具体的なイメージをもつ。		4時間 4時間
	の発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの実際を理解する。 まず、コミュニティ・スクールのさまざまな実施形態について知る。次に、イギリスの学校理事会について知る。 さらに、スウェーデンやイタリアでの取組と日本のコミュニティ・スクールの比較から考える。 学校運営協議会の実践に学ぶ(実地研修) 学校運営協議会の実際を見ることにより、これまで学んできたコミュニティ・スクールの理論と実践をつなげていく。 まず、大阪府内のコミュニティ・スクールを参観し、学校運営協議会に参加することにより、学校運営協議会の具体的なイメージをもつ。 次に、学校運営協議会委員の方と直接話すことにより、地域の方の願いがどのようなものなのかを理解する。	なりのイメージをまとめておく。 1. 学校運営協議会の具体的な姿について、自分	
第13回	の発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの実際を理解する。 まず、コミュニティ・スクールのさまざまな実施形態について知る。次に、デンやイタリアでの取組と日本のコミュニティ・スクールの比較から考える。 学校運営協議会の実践に学ぶ(実地研修) 学校運営協議会の実践に学ぶ(実地研修) 学校運営協議会の実際を見ることにより、これまで学んできたコミュニティ・スクールの理論と実践をつなげていく。まず、大阪府内のコミュニティ・スクールを参観し、学校運営協議会が上ジをも協議会委員の方と直接話すことにより、地域の方の願いと取組を知る(実地研修) 地域の方の願いと取組を知る(実地研修) 実施研修で行く学校で、学校運営協議会にかかわっておられる方の話を聞き、地域の人の立場からことにより、 地域の方の願いと取組を知る(実地研修) 実施研修で行く学校で、学校運営協議会にかかわっておられる方のの話を聞き、地域の人の立場からコミュニティ・スクールの取組を理解できるコミュニティ・スクールの変を考えるコミュニティ・スクールの変を考える。その中で、コルからのコミュニティ・スクールの在り方を考える。	なりのイメージをまとめておく。 1. 学校運営協議会の具体的な姿について、自分	
第12回 第13回 第14回	の発表を聞くことにより、コミュニティ・スクールの実際を理解する。まず、コミュニティ・スクールのさまざまな実施形態について知る。次に、デンやイタリアでの取組と日本のコミニティ・スクールの比較からに、スウェーデンを対りアでの取組と日本のコミニティ・スクールの比較からに、スウェーデンを対している。カウェーデンを教育といるとにより、これまで学んできたコミュニティ・スクールの理論と実践をつなげていく。まず、大阪府内のコミュニティ・スクールを参観し、の単位的なイメージをも加まっとにより、学校運営協議会の実際を見ることにより、学校運営協議会がある。大に、学校運営協議会の表別できた。大阪府内のコミュニティ・ターや運営協議会の表別である方の顔いと取組を知る(実地研修) 実施研修で行く学校で、学校運営協議会にかかわっておられる方の話を聞き、地域の人の立場からコミュニティ・スクールの取組を理解できるこミュニティ・スクールの姿を交流し、これからのコミュニティ・スクールの姿を交流し、これからのコミュニティ・スクールの在り方を考える。	なりのイメージをまとめておく。 1. 学校運営協議会の具体的な姿について、自分なりのイメージをまとめておく。	4時間

テキスト『みんなで創ろうコミュニティ・スクール』 (第6部 新しい (学校) 教育の扉の鍵はコミュニティ・スクール) を読み、まとめの発表を聞くことにより、今後のコミュニティ・スクールについて考える。これまでの学修、実地研修をまとめ、自分なりの考えをもつ。	
	4時間

授業科目名	シチズンシップ教育特論					
担当教員名	小原淳一					
学年・コース等	2年	2年 開講期間 前期 単位数 2				
授業形態	講義					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する					
実務経験の概要	大阪府立支援学校5年、2	大阪府立支援学校5年、大阪府立高等学校8年の勤務経験。				

授業概要

シチズンシップ (市民性) とは、民主主義社会の構成員として自立した思考と判断を行い、政治や社会の意思決定や問題解決に能動的に参加する資質を指す 概念である。そうした社会創造の価値・知識・技能を涵養する教育が、シチズンシップ教育である。近年の人口変動やグローバル化、社会的排除の広がりな どの急速な社会変容の影響から、求められるシチズンシップ教育も変化している。事例検討と授業でのディスカッションを通じてシチズンシップ教育への理 解を深め、自らの興味関心と関係づけることができるように足場を構築していく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 目標: 具体的内容:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 シチズンシップ教育に関する理論

2. DP 3. 批判的検討に基づく自己の考え方の表 シチズンシップ教育に関する実践 出と他者を尊重した討議・応答

汎用的な力

DP1.教育学に関する高度な専門知識や教育

学外連携学修

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内発表及びミニレポートの内容 到達目標(1)(2)(3)に対応して、理解の網羅性と明瞭性を評価する。

60 %

授業内発表及び期末レポートの内容 到達目標(4)(5)に対応して、具体性と理論との接続性を評価する。

40 %

使用教科書

指定する

タイトル 出版社 出版年

唐木清志・岡田泰孝・杉浦真理・川 中大輔監修

『シティズンシップ教育で創る学校の未来』

東洋館出版社

・ 2015 年

(1)シチズンシップ教育の基盤となっている各種理論を理解する。 (2)現在展開されているシチズンシップ教育への批

(3)国内外のシチズンシップ教育の事例を通じて、 実践の方向性を見い出す。 (4)シティズンシップ教育への深い理解に基づき、 自らの現場での教育活動を構想できるようにな な

(5)批判的知性に基づいて、既存の実践の課題を見出せるようになる。

判を理解する。

参考文献等

長沼豊・大久保正弘編『社会を変える教育』キーステージ21、2012年 バーナード・クリック『シティズンシップ教育論』法政大学出版局、2011年 木前利秋他編著『変容するシティズンシップー教会をめぐる政治―』白澤社、2011年 小玉重夫『教育政治学を拓く』勁草書房、2016年 岡野八代『シティズンシップの政治学「増補版」』白澤社、2009年 ガート・ビースタ『民主主義を学習する』勁草書房、2014年 ガート・ビースタ『よい教育とはなにか: 倫理・政治・民主主義』白澤社、2016年 神代建彦編『民主主義の育て方―現代の理論としての戦後教育学―』かもがわ出版、2021年 桔槐健『未来を切り拓く市民性教育』関西大学出版部、2014年 杉本厚夫・高乗秀明・水山光春『教育の30時代』世界思想者、2008年 嶺井明子編『世界のシティズンシップ教育』東信堂、2007年 北山夕華『英国のシティズンシップ教育』早稲田大学出版会、2014年 杉本真理『シティズンシップ教育のすすめ』法律文化社、2013年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業前後の直接対話、もしくは電子メール

場所: 授業教室

場所:	授業教室		
業計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	コースオリエンテーション:子供・若者が社会参加すると は、どういうことか?	「シチズンシップ教育」や「市民性教育」、「主権者教育」に関わり、自身の気になるキーワードを15程度あげ、それらを用いて、3つの問いを作ること。またそれについて、自身の意見をまとめてくること。	4時間
	シチズンシップ教育の定義は様々あり、定まったものはない。ただあえて目標を示すと、社会参加の推進であるといえる。		
第2回	シチズンシップ教育とは何か?(1)「教育」の目的・目 標から考える	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
	本講義では、まずシチズンシップ論の変遷を概観した上で ,現代的なシティズンシップ教育論の確認を行う。。次に ,「公的な教育」の中でシチズンシップ教育をどのように 位置づけることが適当であると考えるかを検討する。その 上で、学習者からの課題発表と全体討議を進めながら、シ ティズンシップ教育の輪郭を捉えていく。		
第3回	シチズンシップ教育の実践事例(1)市民の社会的関与/ 政治的関与に向けた学びについて	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
	ノンフォーマル教育の実践事例検討からシチズンシップ教育の実際と、子供・若者の多様な社会参加について理解を深めていく。その上で、学習者からの課題発表と全体討議を進めながら、その要諦や課題について考察を深めていくこととする。		
第4回	シチズンシップ教育の実践事例(2)日本における先進的 取り組み	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
	フォーマル教育における体系的な実践事例検討から,小学校・中学校・高等学校の各校種でのシチズンシップ教育の 展開について理解を深めていく。その上で,学習者からの 課題発表と全体討議を進めながら,その要諦や課題につい て考察を深めていくこととする。		
第5回	シチズンシップ教育の実践事例(3)教科教育での実践から(社会科、算数科、体育科、家庭科)	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
	先行事例を手掛かりとして各教科でのシチズンシップ教育 の実践について理解を深めていく。その上で、学習者から の課題発表と全体討議を進めながら、そのキー概念や他の 具体的方法について考察を深めていくこととする。		
第6回	シチズンシップ教育の実践事例(4)教科教育等での実践 から(道徳、総合的な学習、特別活動、学校設定科目)	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
	先行事例を手掛かりとして各教科でのシチズンシップ教育 の実践について理解を深めていく。その上で、学習者から の課題発表と全体討議を進めながら、そのキー概念や他の 具体的方法について考察を深めていくこととする。		
第7回	シチズンシップ教育の実践事例(5)隣接領域での実践から(多文化教育、人権教育、開発教育、ESD)	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間

	先行事例を手掛かりとして各教科でのシチズンシップ教育の実践について理解を深めていく。その上で、学習者からの課題発表と全体討議を進めながら、そのキー概念や他の具体的方法について考察を深めていくこととする。		
第8回	シチズンシップ教育の実践事例(6)隣接領域での実践から(防災、ボランティア、消費者、キャリア教育)	次回授業内容に関連する指定文献を読み、担当者はレジュメを作成する。そして、レジュメ作成者、また各自は気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
	先行事例を手掛かりとして各教科でのシチズンシップ教育 の実践について理解を深めていく。その上で、学習者から の課題発表と全体討議を進めながら、そのキー概念や他の 具体的方法について考察を深めていくこととする。		
第9回	シチズンシップ教育の実践事例(7)隣接領域での実践から(法教育、模擬選挙、マニフェスト学習)	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
	先行事例を手掛かりとして各教科でのシチズンシップ教育 の実践について理解を深めていく。その上で、学習者から の課題発表と全体討議を進めながら、そのキー概念や他の 具体的方法について考察を深めていくこととする。		
第10回	シチズンシップ教育とは何か?(2)「シチズンシップ」 の歴史から考える	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
	シチズンシップ教育に関する批判的検討を行うため、本講義ではシチズンシップ概念の歴史的変遷に着目する。シチズンシップとそのもととなるコミュニティとの関係を歴史的に追うことによって、そこで必要とされるシチズンシップ教育も変化していく。このような視座から学習者の課題発表と全体討議で考察していく。		
第11回	シチズンシップ教育とは何か(3)(世界的動向から必要 性を考える)	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
	シチズンシップ教育に関する批判的検討を行うため、本講義ではシチズンシップ概念の持つ排除性に着目する。グローベリゼーションが進展する中、近代国民国家を前ととするシティズンシップ教育には、いくつかの重要な課題が生じている。「移動する人々」が包摂されるシチズンシップ教育の実践について、学習者の課題発表と全体討議で考察していく。		
第12回	シチズンシップ教育とは何か(4)(日本での歴史から考 える)	次回発表者は授業内容に関連する指定文献を読み、内容のレビューを行いレジュメを作成する。また、各自で気になったキーワード15個を用いてカの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
	シチズンシップ教育に関する批判的検討を行うため、本講 義では日本のシチズンシップ教育の歴史的変遷やその背景 を概観する。また日本のでのシチズンシップ教育を「子ど もの権利」の側面から学習者の課題発表と全体討議で考察 していく。		
第13回	シチズンシップ教育とは何か(5)(「シチズンシップ」 を批判的にとらえなおす)	次回授業内容に関連する指定文献を読み、担当者はレジュメを作成する。そして、レジュメ作成者、また各自は気になったキーワード15個を用いて、3つの「問い」をつくること。そして、それぞれに対する自分の意見とその根拠をまとめてくること。	4時間
	ンチズンシップ教育に関する批判的検討を行うため、本講 義では普遍的な人権としての「シチズンシップ」とコミュ ニティから賦与される「シティズンシップ」について、学 習者の課題発表と全体討議で考察していく。		
第14回	シチズンシップ教育実践を構想する 本コースの学びを振り返った上で、自らの「現場」におけるシティズンシップ教育実践をデザインしていく。そこで、本講義ではグループで意見交換を行いながら、個々人で設計していく。	本コースでの学修を臨床化する課題に取り組むに あたって、自らに課す与件を整理してくる。	4時間
第15回	総括:シチズンシップ教育が育む「市民」とは?	次回授業内容に関連する指定文献を読み、担当者 はレジュメを作成する。そして、レジュメ作成 者、また各自は気になったキーワード15個を用い て、3つの「問い」をつくること。そして、それぞ れに対する自分の意見とその根拠をまとめてくる こと。	4時間
	本授業の学びの集大成として、自らの「現場」におけるシチズンシップ教育実践の構想を発表し、自らが教育活動を通じてどのような「市民」を育みたいのかを明確化する。その上で、21世紀社会デザインにおける市民像を巡る全体討議を行い、全体の総括とする。		

授業科目名	研究指導 I					
担当教員名	安部惠子					
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1	
授業形態	演習					
実務経験のある教 員による授業科目						
実務経験の概要						

授業概要

「研究指導 I ~同IV」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。本講義では、身体健康学、特に予防医学的見地からみた健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。この中で、健康教育学、スポーツ科学、身体活動論を中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の文献研究を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究の意義、先行研究の検討、研究倫理 研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確に

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育技術 先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができ

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

授業時における発表

授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート

レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

40 %

使用教科書

指定する

出版社 出版年 タイトル

・ 科学の健全な発展のために一誠実 な科学者の心得一 日本学術振興会(以下略) 丸善出版 · 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

備考・注意事項: 授業初回に連絡する。

削		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	大学院における研究とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	大学院における研究の在り方について理解を深める。		
第2回	これまでの実践経験の省祭	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方 向性を探る。		
第3回	これまでの研究成果の省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今 後の研究の方向性を探る。		
第4回	問題意識の明確化	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の 方向性を探る。		
第5回	先行研究を知ることの意義	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の 位置づけについて理解を深める。		
第6回	先行研究に関する文献資料の収集方法	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	文献資料の収集方法について、理解を深める。		
第7回	問題意識に関する先行研究の探索	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。		
第8回	問題意識と先行研究との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連 を明確にする。		
第9回	研究倫理(1) 責任ある研究活動とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	社会における研究行為の責務と研究者に求められることに ついて、理解を深める。		
第10回	研究倫理(2) 研究計画の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究計画段階における研究者の責務について、理解を深める。		
第11回	研究倫理(3) 研究実施の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究実施段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第12回	研究倫理(4) 成果発表の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	成果発表段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第13回	研究テーマの構想	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
			1

第14回	研究テーマと研究方法	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究テーマに即した研究方法を具体化する。		
第15回	研究テーマの設定	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する。		

授業科目名	研究指導I				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導 $I \sim liV$ 」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。このうち「研究指導 I」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観をとおして修得する。この中で、臨床教育学、特に子どもとその家族に対する関わりを中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究の意義、先行研究の検討、研究倫理 研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確に

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育技術

先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができ

学外連携学修

汎用的な力

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業時における発表

授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート

レポートについては、 $\hat{\mathbb{Q}}$ 研究倫理に関するもの、 $\hat{\mathbb{Q}}$ 各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

40 %

使用教科書

指定する

出版社 タイトル 出版年

・ 科学の健全な発展のために一誠実 な科学者の心得一 日本学術振興会(以下略) 丸善出版 · 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

時間: 授業日の17時から18時まで 場所: 中央館2階個人研究室72

備考・注意事項:

備考・注意事項: 授業外での質問の方法 質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。 メールアドレス: yamamoto-to@osaka-seikei.ac. jp ただし、件名に「研究指導1:質問:○○○○(送信者の氏名)」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず 明記すること。

画信		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	大学院における研究とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	大学院における研究の在り方について理解を深める。		
第2回	これまでの実践経験の省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方 向性を探る。		
第3回	これまでの研究成果の省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今 後の研究の方向性を探る。		
第4回	問題意識の明確化	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の 方向性を探る。		
第5回	先行研究を知ることの意義	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の 位置づけについて理解を深める。		
第6回	先行研究に関する文献資料の収集方法	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	文献資料の収集方法について、理解を深める。		
第7回	問題意識に関する先行研究の探索	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。		
第8回	問題意識と先行研究との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連 を明確にする。		
第9回	研究倫理(1) 責任ある研究活動とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	社会における研究行為の責務と研究者に求められることに ついて、理解を深める。		
第10回	研究倫理(2) 研究計画の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究計画段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第11回	研究倫理(3) 研究実施の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究実施段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第12回	研究倫理(4) 成果発表の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	成果発表段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第13回	研究テーマの構想	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自の研究テーマを具体化する。		

第14回	研究テーマと研究方法	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究テーマに即した研究方法を具体化する。		
第15回	研究テーマの設定	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する。		

授業科目名	研究指導I				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導 $I \sim mliV$ 」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。このうち「研究指導 I」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観をとおして修得する。この中で、教育カウンセリング心理学を中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究の意義、先行研究の検討、研究倫理 研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確に

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育技術 先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができ

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。 授業時における発表

レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

40

使用教科書

指定する

レポート

出版社 出版年

・ 科学の健全な発展のために一誠実 な科学者の心得一 日本学術振興会(以下略) · 丸善出版 ・ 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが 求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

 時間:
 授業日の授業時間前後

 場所:
 中央館5階個人研究室127

場所:	中央館 5 階個人研究室127		
性計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	大学院における研究とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	大学院における研究の在り方について理解を深める。		
第2回	これまでの実践経験の省祭	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方 向性を探る。		
第3回	これまでの研究成果の省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今 後の研究の方向性を探る。		
第4回	問題意識の明確化	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の 方向性を探る。		
第5回	先行研究を知ることの意義	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の 位置づけについて理解を深める。		
第6回	先行研究に関する文献資料の収集方法	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	文献資料の収集方法について、理解を深める。		
第7回	問題意識に関する先行研究の探索	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。		
第8回	問題意識と先行研究との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連 を明確にする。		
第9回	研究倫理(1) 責任ある研究活動とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	社会における研究行為の責務と研究者に求められることに ついて、理解を深める。		
第10回	研究倫理(2) 研究計画の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究計画段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第11回	研究倫理(3) 研究実施の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究実施段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第12回	研究倫理(4) 成果発表の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	成果発表段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第13回	研究テーマの構想	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間

	各自の研究テーマを具体化する。		
第14回	研究テーマと研究方法	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究テーマに即した研究方法を具体化する。		
第15回	研究テーマの設定	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する 。		

授業科目名	研究指導 I				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導 I ~同IV」は、個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて研究する。「研究指導 I」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観をとおして修得する。教育心理学、特に子どもと教育者の発達と学習を中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、自らの教育経験の省察と関連分野の国内外の先行研究の検討を行い、先行研究の整理、研究倫理、研究方法の理解等研究の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

自らの教育経験を省察し、修士論文の研究テーマ を明確にする。 1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 教育経験の省察、研究の意義

汎用的な力

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 先行研究の整理、研究方法の理解

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業時における発表

授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

レポート

レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

40 %

使用教科書

指定する

出版社 出版年

・ 科学の健全な発展のために一誠実 な科学者の心得一 日本学術振興会(以下略) 丸善出版 · 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし。

 時間:
 研究指導の前後に対応する。

 場所:
 研究室(中央館2階 研究室80)

集計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	大学院における研究とは	次回の予習を行う。(実践経験の記録作成)	2時間
	大学院における研究の在り方について理解を深めます。		
第2回	これまでの実践経験の省察	次回の予習を行う。 (研究成果のレポート作成)	2時間
	各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方 向性を探ります。		
第3回	これまでの研究成果の省察	次回の予習を行う。 (問題意識のレポート作成)	2時間
	各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今 後の研究の方向性を探ります。		
第4回	問題意識の明確化	次回の予習を行う。 (先行研究の調査と講読)	2時間
	各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の 方向性を探ります。		
第5回	先行研究を知ることの意義	次回の予習を行う。 (先行研究の調査)	2時間
	学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の 位置づけについて理解を深めます。		
第6回	先行研究に関する文献資料の収集方法	次回の予習を行う。 (先行研究の調査)	2時間
	文献資料の収集方法について、理解を深めます。		
第7回	問題意識に関する先行研究の探索	次回の予習を行う。 (先行研究の整理)	2時間
	各自の問題意識に関連する先行研究を探索していきます。		
第8回	問題意識と先行研究との関連	先行研究に照らしながら、教育・研究経験の省察 し、研究テーマを深める。	2時間
	先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連 を明確化していきます。		
第9回	研究倫理(1) 責任ある研究活動とは	次回の予習を行う。 (研究計画の構想)	2時間
	社会における研究行為の責務と研究者に求められることに ついて、理解を深めます。		
第10回	研究倫理(2) 研究計画の段階	次回の予習を行う。 (研究計画の推敲)	2時間
	研究計画段階における研究者の責務について、理解を深め ます。		
第11回	研究倫理(3) 研究実施の段階	次回の予習を行う。 (研究の意義の考察)	2時間
	研究実施段階における研究者の責務について、理解を深め ます。		
第12回	研究倫理(4) 成果発表の段階	次回の予習を行う。(研究テーマと先行研究レ ビュー)	2時間
	成果発表段階における研究者の責務について、理解を深め ます。		
第13回	研究テーマの構想	次回の予習を行う。 (研究方法の立案)	2時間
	各自の研究テーマを具体化していきます。		
第14回	研究テーマと研究方法	次回の予習を行う。 (研究計画案の作成)	2時間
	研究テーマに即した研究方法を具体化していきます。		
第15回	研究テーマの設定	研究計画の具体化に向けた準備を行う。	2時間
	社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定します。		

授業科目名	研究指導I				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	1年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導 $I \sim mlV$ 」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。このうち「研究指導 I」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観をとおして修得する。この中で、保育・教育を中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 目標: 具体的内容:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究の意義、先行研究の検討、研究倫理 研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確に

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育技術 先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができ

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。 授業時における発表

> 60 %

レポート

レポートについては、①研究倫理に関するもの、②各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

40

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

備考・注意事項: 授業初回に連絡する。

ŧ計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	大学院における研究とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	大学院における研究の在り方について理解を深める。		
第2回	これまでの実践経験の省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方 向性を探る。		
第3回	これまでの研究成果の省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今 後の研究の方向性を探る。		
第4回	問題意識の明確化	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の 方向性を探る。		
第5回	先行研究を知ることの意義	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の 位置づけについて理解を深める。		
第6回	先行研究に関する文献資料の収集方法	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	文献資料の収集方法について、理解を深める。		
第7回	問題意識に関する先行研究の探索	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。		
第8回	問題意識と先行研究との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連 を明確にする。		
第9回	研究倫理(1) 責任ある研究活動とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	社会における研究行為の責務と研究者に求められることに ついて、理解を深める。		
第10回	研究倫理(2) 研究計画の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究計画段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第11回	研究倫理(3) 研究実施の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究実施段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第12回	研究倫理(4) 成果発表の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	成果発表段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第13回	研究テーマの構想	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自の研究テーマを具体化する。	°√°	

第14回	研究テーマと研究方法	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究テーマに即した研究方法を具体化する。		
第15回	研究テーマの設定	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する。		

授業科目名	研究指導 I					
担当教員名	辻村敬三					
学年・コース等	1年 開講期間 前期 単位数 2					
授業形態	演習					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する					
実務経験の概要	京都府立聾学校教諭(6年)、京都府小学校教諭(14年)、京都府教育委員会指導主事(7年)の勤務経験(全15回)					

授業概要

「研究指導 $I \sim m IV$ 」は、個々の研究テーマについて、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究します。このうち「研究指導 I」においては、修士論文のテーマ設定に向けて、その理論的基盤を先行研究の概観をとおして修得する。この中で、子どもの発育発達を中心とした課題と実践に関する研究に取り組むために、関連分野の国内外の研究成果に関する検討を行った上で、研究倫理についての理解も含め、研究姿勢の基礎を体得し、修士論文作成への心構えを身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究の意義、先行研究の検討、研究倫理 研究の意義を理解し、修士論文のテーマを明確に

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育技術 先行研究を踏まえた研究課題を見出すことができ

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

授業時における発表

授業における発表については、①問題意識の明確化の過程、②先行研究の探索状況、③研究テーマの設定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート

レポートについては、 $\hat{\mathbb{Q}}$ 研究倫理に関するもの、 $\hat{\mathbb{Q}}$ 各自の研究テーマに関するものについて作成したものを評価する。

40 %

使用教科書

指定する

出版社 出版年 タイトル

・ 科学の健全な発展のために一誠実 な科学者の心得一 日本学術振興会(以下略) 丸善出版 · 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

備考・注意事項: 授業初回に連絡する。

Ě計画		学修課題	授業外学修課題に
第1回	大学院における研究とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	大学院における研究の在り方について理解を深める。		
第2回	これまでの実践経験の省祭	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	各自のこれまでの実践経験をふりかえり、今後の研究の方 向性を探る。		
第3回	これまでの研究成果の省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自のこれまで自らが行った研究についてふりかえり、今 後の研究の方向性を探る。		
第4回	問題意識の明確化	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自の問題意識を明確化することを通して、今後の研究の 方向性を探る。		
第5回	先行研究を知ることの意義	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	学術的背景・社会的背景を明らかにするための先行研究の 位置づけについて理解を深める。		
第6回	先行研究に関する文献資料の収集方法	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	文献資料の収集方法について、理解を深める。		
第7回	問題意識に関する先行研究の探索	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	各自の問題意識に関連する先行研究を探索していく。		
第8回	問題意識と先行研究との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	先行研究によって得られた知見と各自の問題意識との関連 を明確にする。		
第9回	研究倫理(1) 責任ある研究活動とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	社会における研究行為の責務と研究者に求められることに ついて、理解を深める。		
第10回	研究倫理(2) 研究計画の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究計画段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第11回	研究倫理(3) 研究実施の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究実施段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第12回	研究倫理(4) 成果発表の段階	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	成果発表段階における研究者の責務について、理解を深め る。		
第13回	研究テーマの構想	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
		The state of the s	1

第14回	研究テーマと研究方法	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究テーマに即した研究方法を具体化する。		
第15回	研究テーマの設定	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	社会的背景、学術的背景を踏まえた研究テーマを設定する。		

授業科目名	研究指導Ⅱ					
担当教員名	安部惠子					
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	1	
授業形態	演習					
実務経験のある教 員による授業科目						
実務経験の概要						

授業概要

「研究指導Ⅰ~同IV」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅱ」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。特に、健康教育、スポーツ科学、身体活動論を中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容:

目標:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

研究構想、研究計画、データの収集・整理・分析方法の習得

汎用的な力

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研 究計画を具体的に策定する。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業時における発表

: 授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート

レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

備考・注意事項: 授業初回に連絡する。

研究における仮説の在り方について理解を終 第4回 研究構想案の作成 具体的な研究構想案を作成する。 第5回 研究構想の検討(1)社会的意義との関連 研究構想案について、社会的意義との関連を明 研究構想案について、先行研究との関連 研究構想案について、先行研究との関連を明 研究構想の検討(3)研究方法との関連 研究構想を表しついて、研究方法との関連を明 研究構想を表表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の事情 研究構想発表の事情 研究構想発表の事情 研究構想発表の事情 研究構想発表の事情 研究構想発表の事情を受して、研究 具体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表のないた。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間 2時間 2時間 2時間
第2回 研究の社会的意義 研究の社会的意義について明確化する。 第3回 研究における仮説 研究における仮説の在り方について理解を済 第4回 研究構想案の作成 具体的な研究構想案を作成する。 第5回 研究構想の検討(1)社会的意義との関連 研究構想をについて、社会的意義との関連 研究構想の検討(2)先行研究との関連 研究構想の検討(3)研究方法との関連 研究構想を発表の関連 研究構想を発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表をに向けて、具体的な作業に更 第9回 研究構想発表をでは、具体的な作業に更 第10回 研究構想発表の多りかえり 研究構想発表の多りかえり 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究 指列発表・質疑応答を踏まえて、研究 が行う。 第11回 研究計画策定について 研究計画を策定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
研究の社会的意義について明確化する。 第3回 研究における仮説 研究における仮説の在り方について理解を済 第4回 研究構想案の作成 具体的な研究構想案を作成する。 第5回 研究構想の検討(1)社会的意義との関連 研究構想案について、社会的意義との関連 研究構想の検討(2)先行研究との関連 研究構想の検討(3)研究方法との関連 研究構想を案について、先行研究との関連 研究構想を表の検討(3)研究方法との関連 研究構想を表表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の事備 研究構想発表の事情 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究 遺して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のよりかえり 研究構想発表を踏まえて、研究 第11回 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究 第11回 研究計画策定について	すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第3回 研究における仮説の在り方について理解を落 研究における仮説の在り方について理解を落 の作成 具体的な研究構想案を作成する。 第5回 研究構想の検討(1)社会的意義との関連 研究構想案について、社会的意義との関連を明 研究構想案について、先行研究との関連 研究構想案について、先行研究との関連 研究構想案について、先行研究との関連を明 研究構想案について、研究方法との関連を明 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表を1000000000000000000000000000000000000	すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 明確にする。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読	2時間
研究における仮説の在り方について理解を落 明本の作成 具体的な研究構想案を作成する。 第5回 研究構想の検討(1)社会的意義との関連 研究構想案について、社会的意義との関連を明確を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確を関連を明確で、研究構想を表表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の事情 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究を構想を発表して、研究の在り方について理解を深める第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表を踏まえて、研究制画策定について 研究計画を策定する。	すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 明確にする。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読	2時間
第4回 研究構想案の作成 具体的な研究構想案を作成する。 第5回 研究構想の検討(1)社会的意義との関連 研究構想案について、社会的意義との関連を 第6回 研究構想の検討(2)先行研究との関連 研究構想案について、先行研究との関連 研究構想案について、先行研究との関連 研究構想案について、研究方法との関連 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の事備 研究構想発表を発表及び質疑応答を通して、研究 具体化する。また、他の学生の研究構想発表 研究構想発表 研究情想を発表及び質疑応答を通して、研究 具体化する。また、他の学生の研究構想発表 研究構想発表 研究情想を発表及び質疑応答を通して、研究 現体化する。また、他の学生の研究構想 研究計画と変更を 第10回 研究構想発表 研究構想発表 第20回 研究構想発表 研究計画策定について 研究計画策定について	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。 明確にする。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読	
具体的な研究構想案を作成する。 第5回 研究構想の検討(1)社会的意義との関連 研究構想案について、社会的意義との関連を明確を 第6回 研究構想の検討(2)先行研究との関連 研究構想案について、先行研究との関連を明確 第7回 研究構想の検討(3)研究方法との関連 研究構想案について、研究方法との関連を明確 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の事備 研究構想発表を適して、研究構想発表 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究 具体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表のふりかえり 研究情想発表・質疑応答を踏まえて、研究権 行う。 第11回 研究計画策定について	すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。 明確にする。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読	
第5回 研究構想の検討(1)社会的意義との関連 研究構想案について、社会的意義との関連を 第6回 研究構想の検討(2)先行研究との関連 研究構想案について、先行研究との関連を明 第7回 研究構想の検討(3) 研究方法との関連を明 研究構想案について、研究方法との関連を明 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の事備 研究構想発表の事情 研究構想発表の事情 研究構想発表の事情 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究 真体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表のいいて 研究計画策定について 研究計画策定について	すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。 明確にする。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読	2時間
研究構想案について、社会的意義との関連を 研究構想の検討(2)先行研究との関連 研究構想案について、先行研究との関連を明 第7回 研究構想の検討(3)研究方法との関連を明 研究構想案について、研究方法との関連を明 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表とに向けて、具体的な作業に更 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究 具体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表のよりかえり 研究構想発表のようなかえり 研究構想発表のようながである。 第11回 研究計画策定について	すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。 明確にする。 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読	2時間
第6回 研究構想の検討(2)先行研究との関連 研究構想案について、先行研究との関連を明 第7回 研究構想の検討(3)研究方法との関連 研究構想案について、研究方法との関連を明 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究人体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究権 行う。 第11回 研究計画策定について 研究計画策定について	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読	
研究構想案について、先行研究との関連を明 研究構想の検討(3) 研究方法との関連 研究構想案について、研究方法との関連を明 第8回 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表とに向けて、具体的な作業に更 第9回 研究構想発表 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究 具体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究権 行う。 第11回 研究計画策定について		
第7回 研究構想の検討(3) 研究方法との関連 研究構想案について、研究方法との関連を明 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表とに向けて、具体的な作業に更 新9回 研究構想発表 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究 具体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表でいて 研究計画策定について 研究計画策定について	すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
研究構想案について、研究方法との関連を明 研究構想発表の準備 研究構想発表の準備 研究構想発表会に向けて、具体的な作業に更 第9回 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究 具体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表のふりかえり		
第8回 研究構想発表の準備 研究構想発表会に向けて、具体的な作業に更新 第9回 研究構想発表 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究 具体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究権 行う。 第11回 研究計画策定について	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
研究構想発表会に向けて、具体的な作業に更 第9回 研究構想発表 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究 具体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究権 行う。 第11回 研究計画策定について		ont III
第9回 研究構想発表 研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究 具体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究権 行う。 第11回 研究計画策定について 研究計画を策定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究 具体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究権 行う。 第11回 研究計画策定について		
具体化する。また、他の学生の研究構想発表 通して、研究の在り方について理解を深める 第10回 研究構想発表のふりかえり 研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究様 行う。 第11回 研究計画策定について	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究権 行う。 第11回 研究計画策定について 研究計画を策定する。	・質疑応答を	
行う。 第11回 研究計画策定について 研究計画を策定する。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
研究計画を策定する。	想の再検討を	
	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
第12回 研究計画の検討:研究方法の具体化		
	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
研究方法を具体化する。		
第13回 データ収集方法の検討		2時間
データ収集の方法の検討を行う。	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	
第14回 データ分析方法の検討	すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ	2時間
データ分析方法の検討を行う。	すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ	

第15回	研究計画書の作成	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究計画書の完成を目指す。		

授業科目名	研究指導Ⅱ					
担当教員名	山本智也					
学年・コース等	1年 開講期間 後期 単位数 1					
授業形態	演習					
実務経験のある教 員による授業科目						
実務経験の概要						

授業概要

「研究指導Ⅰ~同IV」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導Ⅱ」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。 臨床教育学、特に子どもとその家族に対する関わりを中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

研究構想、研究 析方法の習得 修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研 究計画を具体的に策定する。 1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究計画、データの収集・整理・分

汎用的な力

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業時における発表 授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

指定する

タイトル 出版社 出版年 著者

・ 科学の健全な発展のために-誠実 な科学者の心得-日本学術振興会(以下略) · 丸善出版 · 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

授業日の17時から18時まで 時間: 場所: 中央館2階個人研究室72

備考・注意事項:

授業外での質問の方法 質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。 メールアドレス: yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp ただし、件名に「研究指導2:質問:○○○○(送信者の氏名)」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

集計画		学修課題	授業外学修課題に
第1回	研究構想と研究計画の具体化とは	#想と研究計画の具体化とは 当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	
	研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案する。		
第2回	研究の社会的意義	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究の社会的意義について明確化する。		
第3回	研究における仮説	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究における仮説の在り方について理解を深める。		
第4回	研究構想案の作成	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	具体的な研究構想案を作成する。		
第5回	研究構想の検討(1)社会的意義との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想案について、社会的意義との関連を明確にする。		
第6回	研究構想の検討(2)先行研究との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想案について、先行研究との関連を明確にする。		
第7回	研究構想の検討(3) 研究方法との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想案について、研究方法との関連を明確にする。		
第8回	研究構想発表の準備	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組む。		
第9回	研究構想発表	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに 具体化する。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を 通して、研究の在り方について理解を深める。		
第10回	研究構想発表のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を 行う。		
第11回	研究計画策定について	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究計画を策定する。		
第12回	研究計画の検討:研究方法の具体化	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究方法を具体化する。		
第13回	データ収集方法の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の方法の検討を行う。		
第14回	データ分析方法の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間

	データ分析方法の検討を行う。		
第15回	研究計画書の作成	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究計画書の完成を目指す。		

授業科目名	研究指導Ⅱ					
担当教員名	米田薫					
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2	
授業形態	演習					
実務経験のある教 員による授業科目						
実務経験の概要						

授業概要

「研究指導 I ~同IV」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導 II」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。 教育カウンセリング心理学を中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

研究構想、研究 析方法の習得 修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研 究計画を具体的に策定する。 1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究計画、データの収集・整理・分

汎用的な力

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。 授業時における発表

60 %

レポート レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが 求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:授業日の授業時間前後場所:中央館5階個人研究室127

場所:	中央館 5 階個人研究室127		
集計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	研究構想と研究計画の具体化とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案する。	'90	
第2回	研究の社会的意義	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究の社会的意義について明確化する。		
第3回	研究における仮説	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究における仮説の在り方について理解を深める。		
第4回	研究構想案の作成	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	具体的な研究構想案を作成する。		
第5回	研究構想の検討(1)社会的意義との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想案について、社会的意義との関連を明確にする。		
第6回	研究構想の検討(2)先行研究との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究構想案について、先行研究との関連を明確にする。		
第7回	研究構想の検討(3) 研究方法との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究構想案について、研究方法との関連を明確にする。		
第8回	研究構想発表の準備	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組む。		
第9回	研究構想発表	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに 具体化する。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を 通して、研究の在り方について理解を深める。		
第10回	研究構想発表のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を 行う。		
第11回	研究計画策定について	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究計画を策定する。		
第12回	研究計画の検討:研究方法の具体化	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究方法を具体化する。		
第13回	データ収集方法の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の方法の検討を行う。		
第14回	データ分析方法の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析方法の検討を行う。		

第15回	研究計画書の作成	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究計画書の完成を目指す。		

授業科目名	研究指導Ⅱ				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導 I ~同IV」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。「研究指導 II」では、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。教育心理学、特に子どもと教育者の発達と学習を中心とした課題と実践に関する研究テーマを明確にし、具体的な研究計画の構想を目指す。特に、研究テーマに即した研究方法を選択し、その研究法を理解し、研究方法の具体化を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究構想、研究計画、データの収集・整理・分 修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研 析方法の習得 究計画を具体的に策定する。

汎用的な力

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究テーマと方法の決定

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

授業時における発表 : 授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及び フィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート: レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

特になし。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

 時間:
 研究指導の前後に対応する。

 場所:
 研究室(中央館2階 研究室80)

性計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	研究構想と研究計画の具体化とは	次回の予習(自身の研究に関する文献を講読し、 研究の社会的背景と意義を考察する)	2時間
	研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案して いきます。		
第2回	研究の社会的意義	次回の予習(研究における仮説の在り方を考える ための文献を講読する)	2時間
	研究の社会的意義について明確化します。		
第3回	研究における仮説	次回の予習 (研究構想案の作成)	2時間
	研究における仮説の在り方について理解を深めます。		
第4回	研究構想案の作成	次回の予習 (研究の社会的意義の考察)	2時間
	具体的な研究構想案を作成します。		
第5回	研究構想の検討(1)社会的意義との関連	次回の予習(先行研究のレビュー)	2時間
	研究構想案について、社会的意義との関連を明確にします。		
第6回	研究構想の検討(2)先行研究との関連	次回の予習(研究方法に関する先行研究の探索)	2時間
	研究構想案について、先行研究との関連を明確にします。		
第7回	研究構想の検討(3) 研究方法との関連	次回の予習 (研究構想発表レジュメの作成)	2時間
	研究構想案について、研究方法との関連を明確にします。		
第8回	研究構想発表の準備	次回の予習 (研究構想発表レジュメの作成)	2時間
	研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組みます。		
第9回	研究構想発表	次回の予習 (構想発表をふまえて研究構想の再検 討)	2時間
	研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに 具体化していきます。また、他の学生の研究構想発表・質 疑応答を通して、研究の在り方について理解を深めます。		
第10回	研究構想発表のふりかえり	次回の予習 (文献を読み研究方法を考える)	2時間
	研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を 行います。		
第11回	研究計画策定について	次回の予習 (研究方法の具体的立案)	2時間
	研究計画を策定していきます。		
第12回	研究計画の検討:研究方法の具体化	次回の予習 (研究方法の吟味)	2時間
	研究方法を具体化していきます。		
第13回	データ収集方法の検討	次回の予習 (研究方法、特に分析方法の吟味)	2時間
	データ収集の方法の検討を行います。		
第14回	データ分析方法の検討	次回の予習 (研究計画書の作成)	2時間
	データ分析方法の検討を行います。		
第15回	研究計画書の作成	研究の実施に向けて準備を進める。	2時間
	研究計画書の完成を目指します。		

授業科目名	研究指導Ⅱ				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導 I ~同IV」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導 II」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。 保育・教育を中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究計画、データの収集・整理・分

研究構想、研究 析方法の習得

修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研 究計画を具体的に策定する。

汎用的な力 1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業時における発表

授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60

レポート

レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

備考・注意事項: 授業初回に連絡する。

性計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	研究構想と研究計画の具体化とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案する。		
第2回	研究の社会的意義	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究の社会的意義について明確化する。		
第3回	研究における仮説	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究における仮説の在り方について理解を深める。		
第4回	研究構想案の作成	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	具体的な研究構想案を作成する。		
第5回	研究構想の検討(1)社会的意義との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想案について、社会的意義との関連を明確にする。		
第6回	研究構想の検討(2)先行研究との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想案について、先行研究との関連を明確にする。		
第7回	研究構想の検討(3) 研究方法との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想案について、研究方法との関連を明確にする。		
第8回	研究構想発表の準備	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組む。		
第9回	研究構想発表	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに 具体化する。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を 通して、研究の在り方について理解を深める。		
第10回	研究構想発表のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を 行う。		
第11回	研究計画策定について	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究計画を策定する。		
第12回	研究計画の検討:研究方法の具体化	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究方法を具体化する。		
第13回	データ収集方法の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の方法の検討を行う。		
第14回	データ分析方法の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析方法の検討を行う。		

第15回	研究計画書の作成	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究計画書の完成を目指す。		

授業科目名	研究指導Ⅱ				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府立聾学校教諭(6年	F)、京都府小学校:	教諭(14年)、京都府教育委員	会指導主事(7年)	の勤務経験(全15回)

授業概要

「研究指導 I ~同IV」は個々の研究テーマについて実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導 II」においては、修士論文作成のための研究構想及び研究計画の具体的策定を見据えたデータの収集・整理・分析方法を修得する。 子どもの発育発達を中心とした課題と実践に関する研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できるように指導を行う。特にインタビュー調査による質的分析によるデータの収集・整理・分析の方法を中心とした研究方法の具体化を図る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究構想、研究計画、データの収集・整理・分 修士論文作成のための研究構想を明らかにし、研 析方法の習得 究計画を具体的に策定する。

汎用的な力

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 研究構想を明確にし、具体的な研究計画を策定できる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業時における発表

: 授業における発表については、①研究構想発表、②研究計画策定のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート

レポートについては、研究計画の具体的進捗状況に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

備考・注意事項: 授業初回に連絡する。

削		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	研究構想と研究計画の具体化とは	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想を明確化した上で、具体的な研究計画を立案する。		
第2回	研究の社会的意義	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究の社会的意義について明確化する。		
第3回	研究における仮説	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究における仮説の在り方について理解を深める。		
第4回	研究構想案の作成	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	具体的な研究構想案を作成する。		
第5回	研究構想の検討(1)社会的意義との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想案について、社会的意義との関連を明確にする。		
第6回	研究構想の検討(2)先行研究との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想案について、先行研究との関連を明確にする。		
第7回	研究構想の検討(3) 研究方法との関連	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究構想案について、研究方法との関連を明確にする。		
第8回	研究構想発表の準備	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想発表会に向けて、具体的な作業に取り組む。		
第9回	研究構想発表	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想を発表及び質疑応答を通して、研究構想をさらに 具体化する。また、他の学生の研究構想発表・質疑応答を 通して、研究の在り方について理解を深める。		
第10回	研究構想発表のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究構想発表・質疑応答を踏まえて、研究構想の再検討を 行う。		
第11回	研究計画策定について	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究計画を策定する。		
第12回	研究計画の検討:研究方法の具体化	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究方法を具体化する。		
第13回	データ収集方法の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の方法の検討を行う。		
第14回	データ分析方法の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ	2時間
		! る。	

第15回	研究計画書の作成	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究計画書の完成を目指す。		

授業科目名	研究指導Ⅲ				
担当教員名	安部惠子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。 この中で、身体健康学、特に予防医学的見地からみた健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究計画人基づき、フィールド調査による質的分析を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

フィールド調査によるデータの収集・整理・分析 に関する指導を行う。 1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 データの収集・整理・分析

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育技術 修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。 授業時における発表

60 %

レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。 レポート

40 %

使用教科書

指定する

出版年

・ 科学の健全な発展のために一誠実 な科学者の心得一 日本学術振興会(以下略) ・ 丸善出版 ・ 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

 時間:
 随時相談にのります

 場所:
 中央館2階個人研究室72

備考・注意事項: 授業外での質問の方

授業外での質問の方法 質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する(講義時に提示)。

性計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ~Ⅱ」を通しての学びの省祭	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、 今後の研究計画を確認します。		
第2回	データ収集実施の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の具体的な手順を確認していきます。		
第3回	データ収集時における倫理的配慮の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。		
第4回	データ収集状況の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集のこれまでの状況を確認していきます。		
第5回	データ収集過程の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の過程を再度吟味していきます。		
第6回	データ分析方法の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析の具体的な手順を確認していきます。		
第7回	データ分析方法の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データの分析方法について確認していきます。		
第8回	研究中間発表の準備	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。		
第9回	研究中間発表	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表に取り組みます。		
第10回	研究中間発表のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理 します。		
第11回	データ分析方法の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。		
第12回	研究の妥当性と信頼性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連 づけながら、理解を深めます。		
第13回	データ分析の実施	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	収集したデータをもとにその分析を実施していきます。		
第14回	分析結果の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。		

第15回	分析結果の具体的記述	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	分析結果を具体的に記述しています。		

授業科目名	研究指導Ⅲ				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。 この中で、臨床教育学、特に子どもとその家族に対する関わりを中心とした課題と実践に関する研究計画に基づき、インタビュー調査による質的分析による研究を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

インタビュー調査による質的分析による研究を実施し、データの収集・整理・分析を行うことができる。 1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 データの収集・整理・分析

汎用的な力

DP1.教育学に関する高度な専門知識や教育

修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業時における発表

授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート

レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

40

使用教科書

指定する

タイトル 出版社 出版年

日本学術振興会(以下略)

・ 科学の健全な発展のために一誠実 な科学者の心得一

• 丸善出版

・ 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

時間: 授業日の17時から18時まで 場所: 中央館2階個人研究室72 備考・注意事項:

授業外での質問の方法 質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。 メールアドレス:yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp ただし、件名に「研究指導3:質問:○○○○(送信者の氏名)」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

性計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ~Ⅱ」を通しての学びの省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、 今後の研究計画を確認します。		
第2回	データ収集実施の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の具体的な手順を確認していきます。		
第3回	データ収集時における倫理的配慮の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。		
第4回	データ収集状況の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	データ収集のこれまでの状況を確認していきます。		
第5回	データ収集過程の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の過程を再度吟味していきます。		
第6回	データ分析方法の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析の具体的な手順を確認していきます。		
第7回	データ分析方法の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データの分析方法について確認していきます。		
第8回	研究中間発表の準備	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。		
第9回	研究中間発表	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表に取り組みます。		
第10回	研究中間発表のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理 します。		
第11回	データ分析方法の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。		
第12回	研究の妥当性と信頼性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連 づけながら、理解を深めます。		
第13回	データ分析の実施	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	収集したデータをもとにその分析を実施していきます。		
第14回	分析結果の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間

	データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。		
第15回	分析結果の具体的記述	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	分析結果を具体的に記述しています。		

授業科目名	研究指導Ⅲ				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。 この中で、教育カウンセリング心理学を中心とした課題と実践に関する研究計画に基づき、インタビュー調査による質的分析による研究を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標

DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決
 データの収集・整理・分析
 ボータの収集・整理・分析を行うことができる。

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育

修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業時における発表

: 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート

レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

指定する

著者 タイトル 出版社 出版社 出版

日本学術振興会(以下略) ・ 科学の健全な発展のために一誠実 ・ 丸善出版 ・ 2015 年 な科学者の心得一

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業日

場所: 中央館5階個人研究室127

備考・注意事項:

授業外での質問の方法 質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。 メールアドレス: yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp ただし、件名に「研究指導 3: 質問:○○○○(送信者の氏名)」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず 明記すること。

性計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ~Ⅱ」を通しての学びの省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、 今後の研究計画を確認します。		
第2回	データ収集実施の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の具体的な手順を確認していきます。		
第3回	データ収集時における倫理的配慮の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。		
第4回	データ収集状況の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集のこれまでの状況を確認していきます。		
第5回	データ収集過程の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の過程を再度吟味していきます。		
第6回	データ分析方法の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析の具体的な手順を確認していきます。		
第7回	データ分析方法の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データの分析方法について確認していきます。		
第8回	研究中間発表の準備	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。		
第9回	研究中間発表	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表に取り組みます。		
第10回	研究中間発表のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理 します。		
第11回	データ分析方法の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。		
第12回	研究の妥当性と信頼性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連 づけながら、理解を深めます。		
第13回	データ分析の実施	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	収集したデータをもとにその分析を実施していきます。		
			1

第14回	分析結果の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。		
第15回	分析結果の具体的記述	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	分析結果を具体的に記述しています。		

授業科目名	研究指導Ⅲ				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。 このなかで、本クラスにおいては、教育心理学、特に子どもと教育者の発達と学習を中心とした課題と実践に関する研究計画に基づき、研究を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

目標

インタビュー調査による質的分析による研究を実施し、データの収集・整理・分析を行うことができる。

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育

修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業時における発表

: 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

具体的内容:

データの収集・整理・分析

レポート

レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業の前後

場所: 中央館5階個人研究室127

ŧ計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ~Ⅱ」を通しての学びの省祭	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、 今後の研究計画を確認します。		
第2回	データ収集実施の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の具体的な手順を確認していきます。		
第3回	データ収集時における倫理的配慮の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。		
第4回	データ収集状況の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集のこれまでの状況を確認していきます。		
第5回	データ収集過程の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
Artr o.	データ収集の過程を再度吟味していきます。	Nation Walls and Land Land Book and Land Land Land Land Land Land Land	
第6回	データ分析方法の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析の具体的な手順を確認していきます。		
第7回	データ分析方法の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データの分析方法について確認していきます。		
第8回	研究中間発表の準備	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。		
第9回	研究中間発表	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表に取り組みます。		
第10回	研究中間発表のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理 します。		
第11回	データ分析方法の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。		
第12回	研究の妥当性と信頼性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連 づけながら、理解を深めます。		
第13回	データ分析の実施	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	収集したデータをもとにその分析を実施していきます。		
第14回	分析結果の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。		
第15回	分析結果の具体的配述	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	分析結果を具体的に記述しています。		

授業科目名	研究指導Ⅲ				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。 この中で、身体健康学、特に予防医学的見地からみた健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究計画人基づき、フィールド調査による質的分析を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

データの収集・整理・分析 フィールド調査によるデータの収集・整理・分析 に関する指導を行う。 1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育技術 修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

汎用的な力

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。 授業時における発表

60 %

レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。 レポート

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが 求められる。

備考・注意事項: 初回の授業で連絡します。

削		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ~Ⅱ」を通しての学びの省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、 今後の研究計画を確認します。		
第2回	データ収集実施の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の具体的な手順を確認していきます。		
第3回	データ収集時における倫理的配慮の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。		
第4回	データ収集状況の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集のこれまでの状況を確認していきます。		
第5回	データ収集過程の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	データ収集の過程を再度吟味していきます。		
第6回	データ分析方法の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	データ分析の具体的な手順を確認していきます。		
第7回	データ分析方法の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	データの分析方法について確認していきます。 研究中間発表の準備	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読	2時間
舟0凹	卯九 中間光 な の平備	ヨのな来に元立りな来に代と、 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2 時 月
	研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。		
第9回	研究中間発表	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究中間発表に取り組みます。		
第10回	研究中間発表のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理 します。		
第11回	データ分析方法の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。		
第12回	研究の妥当性と信頼性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連 づけながら、理解を深めます。		
第13回	データ分析の実施	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	収集したデータをもとにその分析を実施していきます。		
第14回	分析結果の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間

	データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。		
第15回	分析結果の具体的記述	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	分析結果を具体的に記述しています。		

授業科目名	研究指導Ⅲ				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。 この中で、身体健康学、特に予防医学的見地からみた健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究計画人基づき、フィールド調査による質的分析を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

> データの収集・整理・分析 フィールド調査によるデータの収集・整理・分析 に関する指導を行う。

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育技術

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。 授業時における発表

60 %

レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。 レポート

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが 求められる。

授業外学修課題に かかる目安の時間 授業計画 学修課題

第1回	「研究指導Ⅰ~Ⅱ」を通しての学びの省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、 今後の研究計画を確認します。		
第2回	データ収集実施の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の具体的な手順を確認していきます。		
第3回	データ収集時における倫理的配慮の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。		
第4回	データ収集状況の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集のこれまでの状況を確認していきます。		
第5回	データ収集過程の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の過程を再度吟味していきます。		
第6回	データ分析方法の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析の具体的な手順を確認していきます。		ont BB
第7回	データ分析方法の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	データの分析方法について確認していきます。		
第8回	研究中間発表の準備	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。		
第9回	研究中間発表	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表に取り組みます。		
第10回	研究中間発表のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理 します。		
第11回	データ分析方法の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。		
第12回	研究の妥当性と信頼性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連 づけながら、理解を深めます。		
第13回	データ分析の実施	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	収集したデータをもとにその分析を実施していきます。		
第14回	分析結果の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。		
第15回	分析結果の具体的記述	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間

授業科目名	研究指導Ⅳ				
担当教員名	安部惠子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導 I ~同IV」は、個々の研究テーマを探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導IV」においては、修士論文の到達点を明確にし、データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図り、論文構成を洗練させ、修士論文の完成をめざす。 この中で、身体健康学、予防医科学的見地から見た健康と身体の問われませない、

^{7。} この中で、身体健康学, 予防医科学的見地から見た健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究について、特に、研究結果を踏まえて、教育に関 する実践的課題を踏まえた考察を深めた修士論文の完成をめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

理論構築、オリジナリティ、省察 1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 修士論文を完成させることができる。自らの研究 過程を具体的に省察することができる。

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 技術

データの分析結果を踏まえ、研究課題についての 理論構築を図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業時における発表 ①考察の検討、②研究のふりかえりについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート レポートについては、研究への取り組みについての全般的な省察に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

指定する

出版年 タイトル 出版社

・ 科学の健全な発展のために一誠実 な科学者の心得一 日本学術振興会(以下略) · 2015 年 · 丸善出版

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

時間: 随時相談にのります 場所: 中央館2階個人研究室79

備考・注意事項:

授業外での質問の方法 質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。 メールアドレス: abe-ke@osaka-seikei. ac. jp ただし、件名に「研究指導4:質問:○○○○(送信者の氏名)」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず 明記すること。

削		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ~Ⅲ」を通しての学びの省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、 今後の研究計画を確認します。	•	
第2回	研究テーマとこれまでの論術内容の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	これまでの論述内容と研究テーマの整合性を確認していき ます。		
第3回	先行研究と論文テーマとの関連の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	先行研究と研究テーマの関連性を再確認していきます。		
第4回	考察の検討(1)結果との関連性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	結果と考察の関連性を検討していきます。		
第5回	考察の検討(2)研究成果の社会的貢献	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究成果の社会的貢献という視点で考察を検討していきま す。		
第6回	考察の検討(3)本研究の限界に関する検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	本研究を全般的にとらえ、研究の限界と今後の研究のあり 方について検討していきます。		
第7回	論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	論文全体の構成を中心に論文の内容を確認していきます。		
第8回	論文の論述と内容の確認(章・節の構成を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	章・節の構成を中心に論文の内容を確認していきます。		
第9回	論文の論述と内容の確認 (引用・注釈の表示を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	引用・注釈の表示を中心に論文の内容を確認していきます 。		
第10回	論文の論述と内容の確認(引用文献と参考文献を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	引用文献と参考文献を中心に論文の内容を確認していきます。		
第11回	論文の論述と内容の確認(図表の表示を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	図表の表示を中心に論文の内容を確認していきます。		
第12回	論文提出のための最終確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	論文提出のための最終確認をしていきます。		
第13回	研究過程全体のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究過程全体を中心に自らの研究をふりかえります。		

第14回	研究成果のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究成果の観点から、自らの研究をふりかえります。		
第15回	今後の研究に向けた取り組み	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	これまでの研究をふりかえり、今後の研究課題を明確化し ていきます。		

授業科目名	研究指導Ⅳ				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導 I ~同IV」は、個々の研究テーマを探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導IV」においては、修士論文の到達点を明確にし、データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図り、論文構成を洗練させ、修士論文の完成をめざす。 この中で、臨床教育学、特に子どもとその家族に対する関わりを中心とした課題と実践に関する研究について、特に、研究結果を踏まえて、教育に関する実践的課題を踏まえた考察を深めた修士論文の完成をめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 理論構築、オリジナリティ、省察 修士論文を完成させることができる。自らの研究 過程を具体的に省察することができる。

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育 技術

データの分析結果を踏まえ、研究課題についての 理論構築を図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

授業時における発表 : ①考察の検討、②研究のふりかえりについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート : レポートについては、研究への取り組みについての全般的な省察に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

指定する

 著者
 タイトル
 出版社
 出版年

 日本学術振興会(以下略)
 ・ 科学の健全な発展のために一誠実
 ・ 丸善出版

 な科学者の心得一
 ・ 2015 年

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

時間: 授業日の17時から18時まで 場所: 中央館2階個人研究室72 備考・注意事項:

授業外での質問の方法 質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。 メールアドレス: yamamoto-to@osaka-seikei.ac. jp ただし、件名に「研究指導4:質問:○○○○(送信者の氏名)」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず 明記すること。

性計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ~Ⅲ」を通しての学びの省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、 今後の研究計画を確認します。	~o	
第2回	研究テーマとこれまでの論術内容の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	これまでの論述内容と研究テーマの整合性を確認していき ます。		
第3回	先行研究と論文テーマとの関連の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	先行研究と研究テーマの関連性を再確認していきます。		
第4回	考察の検討(1)結果との関連性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	結果と考察の関連性を検討していきます。		
第5回	考察の検討(2)研究成果の社会的貢献	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究成果の社会的貢献という視点で考察を検討していきま す。		
第6回	考察の検討(3)本研究の限界に関する検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	本研究を全般的にとらえ、研究の限界と今後の研究のあり 方について検討していきます。		
第7回	論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	論文全体の構成を中心に論文の内容を確認していきます。		
第8回	論文の論述と内容の確認(章・節の構成を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	章・節の構成を中心に論文の内容を確認していきます。		
第9回	論文の論述と内容の確認 (引用・注釈の表示を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	引用・注釈の表示を中心に論文の内容を確認していきます 。		
第10回	論文の論述と内容の確認(引用文献と参考文献を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	引用文献と参考文献を中心に論文の内容を確認していきま す。		
第11回	論文の論述と内容の確認(図表の表示を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	図表の表示を中心に論文の内容を確認していきます。		
第12回	論文提出のための最終確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	論文提出のための最終確認をしていきます。		
第13回	研究過程全体のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究過程全体を中心に自らの研究をふりかえります。		

第14回	研究成果のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究成果の観点から、自らの研究をふりかえります。		
第15回	今後の研究に向けた取り組み	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	これまでの研究をふりかえり、今後の研究課題を明確化し ていきます。		

授業科目名	研究指導Ⅳ				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導 I ~同IV」は、個々の研究テーマを探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導IV」においては、修士論文の到達点を明確にし、データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図り、論文構成を洗練させ、修士論文の完成をめざす。この中で、教育カウンセリング心理学を中心とした課題と実践に関する研究について、特に、研究結果を踏まえて、教育に関する実践的課題を踏まえた考察を深めた修士論文の完成をめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 理論構築、オリジナリティ、省察 修士論文を完成させることができる。自らの研究 過程を具体的に省察することができる。

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育

データの分析結果を踏まえ、研究課題についての 理論構築を図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

授業時における発表 : ①考察の検討、②研究のふりかえりについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート : レポートについては、研究への取り組みについての全般的な省察に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

指定する

著者 タイトル 出版社 出版年

日本学術振興会(以下略) ・ 科学の健全な発展のために一誠実 ・ 丸善出版 ・ 2015 年 な科学者の心得一

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各長業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

中央館 5 階 個人研究室127 場所:

備考・注意事項:

授業外での質問の方法 質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。 メールアドレスyoneda@osaka-seikei.ac.jp ただし、件名に「研究指導4:質問:○○○○(送信者の氏名)」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず 明記すること。

画信		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ~Ⅲ」を通しての学びの省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、 今後の研究計画を確認します。		
第2回	研究テーマとこれまでの論術内容の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	これまでの論述内容と研究テーマの整合性を確認していき ます。		
第3回	先行研究と論文テーマとの関連の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	先行研究と研究テーマの関連性を再確認していきます。		
第4回	考察の検討(1)結果との関連性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第5回	結果と考察の関連性を検討していきます。 考察の検討(2)研究成果の社会的貢献	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読	2時間
免9回	与祭の使的(3)切九成米の任云的貝献	コロス条に元立り収未り合に関連する文献を講成すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	∠# ₫ E
	研究成果の社会的貢献という視点で考察を検討していきま す。		
第6回	考察の検討(3)本研究の限界に関する検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	本研究を全般的にとらえ、研究の限界と今後の研究のあり 方について検討していきます。		
第7回	論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	論文全体の構成を中心に論文の内容を確認していきます。		
第8回	論文の論述と内容の確認(章・節の構成を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	章・節の構成を中心に論文の内容を確認していきます。		
第9回	論文の論述と内容の確認 (引用・注釈の表示を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	引用・注釈の表示を中心に論文の内容を確認していきます。		
第10回	論文の論述と内容の確認 (引用文献と参考文献を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	引用文献と参考文献を中心に論文の内容を確認していきます。		
第11回	論文の論述と内容の確認(図表の表示を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	図表の表示を中心に論文の内容を確認していきます。		
第12回	論文提出のための最終確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	論文提出のための最終確認をしていきます。		

第13回	研究過程全体のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究過程全体を中心に自らの研究をふりかえります。		
第14回	研究成果のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究成果の観点から、自らの研究をふりかえります。		
第15回	今後の研究に向けた取り組み	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	これまでの研究をふりかえり、今後の研究課題を明確化し ていきます。		

授業科目名	研究指導Ⅳ				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。 このなかで、本クラスにおいては、教育心理学、特に子どもと教育者の発達と学習を中心とした課題と実践に関する研究計画に基づき、研究を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

データの収集・整理・分析

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

目標

インタビュー調査による質的分析による研究を実施し、データの収集・整理・分析を行うことができる。

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育

修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業時における発表

: 授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート

レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業の前後

場所: 中央館2階個人研究室80

美計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ~Ⅱ」を通しての学びの省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、 今後の研究計画を確認します。		
第2回	データ収集実施の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の具体的な手順を確認していきます。		
第3回	データ収集時における倫理的配慮の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。		
第4回	データ収集状況の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集のこれまでの状況を確認していきます。		
第5回	データ収集過程の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
答c尼	データ収集の過程を再度吟味していきます。	N 34松 米) > 仕 寸 4 松 4 松 4 炒 > BB ** 1	Ant-pe
第6回	データ分析方法の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析の具体的な手順を確認していきます。		
第7回	データ分析方法の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データの分析方法について確認していきます。		
第8回	研究中間発表の準備	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。		
第9回	研究中間発表	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表に取り組みます。		
第10回	研究中間発表のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理 します。		
第11回	データ分析方法の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。		
第12回	研究の妥当性と信頼性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連 づけながら、理解を深めます。		
第13回	データ分析の実施	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	収集したデータをもとにその分析を実施していきます。		
第14回	分析結果の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。		
第15回	分析結果の具体的記述	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	分析結果を具体的に記述しています。		

授業科目名	研究指導Ⅳ				
担当教員名	鈴木勇				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導 I ~同IV」は、個々の研究テーマを探究し、実践の理論化をめざすもので、各専門指導教員の指導を受けて、研究する。このうち「研究指導IV」においては、修士論文の到達点を明確にし、データの分析結果を踏まえ、研究課題についての理論構築を図り、論文構成を洗練させ、修士論文の完成をめざす。 この中で、身体健康学、特にyp棒医学的見地から見た健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究について、特に、研究結果を踏まえて、教育に関する実践的課題を踏まえた考察を深めた修士論文の完成をめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決 理論構築、オリジナリティ、省察 修士論文を完成させることができる。自らの研究 過程を具体的に省察することができる。

汎用的な力

1. DP1.教育学に関する高度な専門知識や教育 技術

データの分析結果を踏まえ、研究課題についての 理論構築を図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

授業時における発表 : ①考察の検討、②研究のふりかえりについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。

60 %

レポート : レポートについては、研究への取り組みについての全般的な省察に関するものを評価する。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。

備考・注意事項: 初回の授業で連絡します。

削		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ~Ⅲ」を通しての学びの省祭	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、 今後の研究計画を確認します。		
第2回	研究テーマとこれまでの論術内容の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	これまでの論述内容と研究テーマの整合性を確認していき ます。		
第3回	先行研究と論文テーマとの関連の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	先行研究と研究テーマの関連性を再確認していきます。		
第4回	考察の検討(1)結果との関連性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	結果と考察の関連性を検討していきます。		
第5回	考察の検討(2)研究成果の社会的貢献	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究成果の社会的貢献という視点で考察を検討していきま す。		
第6回	考察の検討(3)本研究の限界に関する検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	本研究を全般的にとらえ、研究の限界と今後の研究のあり 方について検討していきます。		
第7回	論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	論文全体の構成を中心に論文の内容を確認していきます。		
第8回	論文の論述と内容の確認 (章・節の構成を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	章・節の構成を中心に論文の内容を確認していきます。		
第9回	論文の論述と内容の確認 (引用・注釈の表示を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	引用・注釈の表示を中心に論文の内容を確認していきます。		
第10回	論文の論述と内容の確認(引用文献と参考文献を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	引用文献と参考文献を中心に論文の内容を確認していきま す。		
第11回	論文の論述と内容の確認 (図表の表示を中心に)	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	図表の表示を中心に論文の内容を確認していきます。		
第12回	論文提出のための最終確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	論文提出のための最終確認をしていきます。		
第13回	研究過程全体のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究過程全体を中心に自らの研究をふりかえります。		

第14回	研究成果のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究成果の観点から、自らの研究をふりかえります。		
第15回	今後の研究に向けた取り組み	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	これまでの研究をふりかえり、今後の研究課題を明確化し ていきます。		

授業科目名	研究指導Ⅳ				
担当教員名	辻村敬三				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「研究指導Ⅲ」においては、先行研究論文の探求や教育実践に資する調査研究の実施、データの収集及び分析を進めていき、修士論文中間報告会における報告と、そこでのフィードバックを通して、妥当性・信頼性のある、より質の高い研究をめざす。 この中で、身体健康学、特に予防医学的見地からみた健康と身体の関わりを中心とした課題と実践に関する研究計画人基づき、フィールド調査による質的分析を実施し、データの収集・整理・分析に関する指導を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

データの収集・整理・分析 フィールド調査によるデータの収集・整理・分析 に関する指導を行う。 1. DP 2. 教育実践の省察と創造的問題解決

汎用的な力

1. DP 1. 教育学に関する高度な専門知識や教育技術 修士論文作成に向けて各自が妥当性・信頼性のあるより質の高い研究ができる。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業における発表については、①研究中間発表、②データ分析のそれぞれについての発表及びフィードバックを総合的に評価する。 授業時における発表

60 %

レポートについては、データ分析の具体的進捗状況に関するものを評価する。 レポート

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

研究テーマに即して適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

各授業回において、当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが 求められる。

備考・注意事項: 授業時に周知する

削		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	「研究指導Ⅰ~Ⅱ」を通しての学びの省察	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	これまでの研究への取り組み、到達状況を確認した上で、 今後の研究計画を確認します。		
第2回	データ収集実施の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集の具体的な手順を確認していきます。		
第3回	データ収集時における倫理的配慮の再確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集時における倫理的配慮の再確認していきます。		
第4回	データ収集状況の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ収集のこれまでの状況を確認していきます。		
第5回	データ収集過程の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	データ収集の過程を再度吟味していきます。		
第6回	データ分析方法の具体的手順	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	データ分析の具体的な手順を確認していきます。		
第7回	データ分析方法の確認	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
第8回	データの分析方法について確認していきます。 研究中間発表の準備	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読	2時間
舟0凹	卯九 中間光 な の平備	ヨのな来に元立りな来に代と、 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2 時 月
	研究中間発表に向けた発表内容の準備をします。		
第9回	研究中間発表	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	研究中間発表に取り組みます。		
第10回	研究中間発表のふりかえり	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究中間発表をふりかえり、今後取り組むべき課題を整理 します。		
第11回	データ分析方法の再検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	データ分析方法を必要に応じて再検討していきます。		
第12回	研究の妥当性と信頼性	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	研究の妥当性と信頼性について、具体的な研究活動と関連 づけながら、理解を深めます。		
第13回	データ分析の実施	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間
	収集したデータをもとにその分析を実施していきます。		
第14回	分析結果の検討	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読 すること、授業を終えてからは当該授業において 自らが理解した内容を整理することが求められ る。	2時間

	データの分析結果を受け、その内容を吟味していきます。		
第15回	分析結果の具体的記述	当該授業に先立ち授業内容に関連する文献を講読すること、授業を終えてからは当該授業において自らが理解した内容を整理することが求められる。	2時間
	分析結果を具体的に記述しています。		